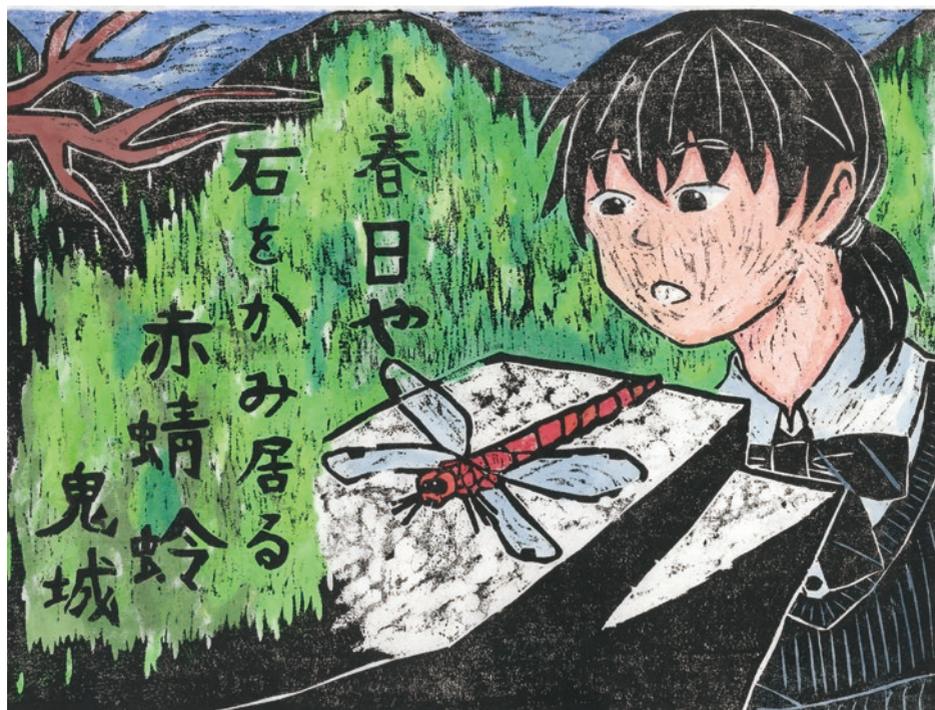


金光学園

やっなみ

2022. 12





体育会

ほつま祭



部活動紹介

バスケットボール部

金光学園バスケットボール部は、現在、中学男子13名、中学女子15名、高校男子13名マネージャー1名、高校女子11名マネージャー1名の総勢54名で毎日練習に励んでいる。最近の戦績では、高校生男子は、インターハイ予選・ウインターカップ予選とベスト8、高校女子はウインターカップ予選でベスト16と大健闘している。中学生は、初心者も多い中、高校生の姿を目標に男女ともに県大会出場目指して日々練習を頑張っているところである。また、毎年、1月2日にはOB会を行っており、卒業しても深いつながりを持ち、先輩・後輩年齢関係なく一緒に楽しめるところが金光学園バスケットボール部の良さである。部員一同、目標に向かって活動を行うことで、技術力はもちろん、チームワークの大切さ・人とかかわり方などを学び、成長する姿がみられる。そして、バスケットボールを通して、さらに社会にでて活躍できるように人間的に大きく成長していつてほしいと願っている。



美術部

美術部は現在、中学生10名、高校生6名で活動している。日々、放課後になると120記念館2階の美術教室に集まり、それぞれが自由気ままに創作を楽しむ。そんな日常の雑事をしばし忘れるような、ゆつたりとした雰囲気の中から一人ひとりの個性に応じた様々な作品が生まれてくる。イラストや絵画が中心ではあるが、最近では立体物の制作に取り組み生徒も増えてきた。年間の活動で最も大きなものは、やはりほつま祭の展示である。中高それぞれ会場に設けられた真つ白なパネルには、部員が1年の間に描いた力作が数多く並ぶ。大小さまざまな画用紙やケント紙に描かれた、アクリル絵具や水彩絵具、色鉛筆やマーカーを駆使した色とりどりの作品を覚えているという方もいらっしゃるだろう。パネルの余白を少しでも埋めるために、ポストカードサイズのイラストを増やそうと当日の朝まで奮闘する部員も実は少なくない。

その他にも、コンクールへの出品、ほつま祭のポスター制作など、中高で時期ごとに目標を定めて創作活動に動んでいる。美術を愛好する仲間たちが集まり、互いに刺激し合いながら、緩やかに活動する美術部に興味がある人は、ぜひ気軽な気持ちで美術教室に遊びに来てほしい。



コロナ禍の3年間を、生きる経験へ転換させよう

中桐 大作

9月に開催しましたほつま祭では、生徒のみでなく家族が参加できる方法を模索いただき開催を決断いただいた先生方に感謝申し上げます。また、やつなみ保護者会の皆様には、当日の予約販売へのご協力や新学年が始まる前の時期から金光ベアの制作に携わっていただき、多岐にわたりご協力くださりありがとうございます。

新型コロナウイルスによるパンデミック発生以降、人が集い交流を図っていくことが難しい状況となり、保護者間のつながりが希薄化していくことが続いていたと思います。そんな中でも、子供たちに人生経験を積ませたい、様々なことにチャレンジしてもらいたい、そのバックアップをする為になつなみ保護者会の諸活動にご協力賜り、この場をおかりし御礼申し上げます。

この3年間、マスクの着用、孤食や黙食、体験学習の中止や変更、部活動の制限などコロナ禍前までは当たり前だったことが出来ない時間を過ごしてきました。今の時代は制限が多く経験できることも減ってしまいい残念だと考えてしまいがちですが、逆に何が目的かを明確に考えさせられ、目的達成の為のプロセスを新たに生み出すために知恵を出し合い補ってきました。今後はコロナと共存していく社会へと変化していきます。その際には、コロナ禍で得た目的の明確化やプロセスを生み出す能力が生かされ、これからの活動にさらなる付加価値が生れてくるものと思います。これからのニューノーマル時代を子供たちは金光学園で過ごしていきます。前進し続けていく子供たちを支えるために、保護者の皆様にはやつなみ保護者会の活動へのご支援ご協力の程、宜しくお願いいたします。

(金光学園やつなみ保護者会副会長)

目次

巻頭言	1
金光学園創立128年記念式道 ⁽³³⁾	2
活躍する卒業生 中村文美	10
メタセコイヤ	12
活躍おめでとう	16
やつなみ保護者会のページ	18
友愛セールご協力の御礼	21
会報	23
金光学園「学童サマースクール」開催	24
中2広島平和研修	26
中2Kibi Autumn Adventure	28
体育会	32
ほつま祭	36
ある日のホームルーム	40
高2修学旅行	44
生徒会活動	46
学園だより	53
教室の窓から・編集後記	61
	64

金光学園創立128年記念式



金光学園創立128年記念式が、11月11日、厳かに挙行された。晴天の下、朝8時15分、校長と生徒代表高3金光文夫君と中3矢野心陽さんが本部広前に参拝し、教主金光様にお礼のお届けをした。8時30分、全校生徒、教職員揃って本部会堂前より参拝し、その後、教団墓地と初代校長の頌徳碑を参拝して帰校した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のための模様を各HR教室にオンラインで中継した。10時に代表の生徒および教職員が集合し、祭事が始まった。まず、感謝祭が行われ、学校法人金光学園理事長の祭詞(学校法人常務理事代読)に始まり、生徒代表より玉串が奉奠された。

式典では、国歌静聴の後、25年動続の山下真儀教諭、山本幸子教諭、森下美穂教諭、石井秀典教諭が表彰を受けた。続いて校長式辞、生徒代表の所願表明と続き金光学園歌静聴で締めくくられた。



休憩の後、西嶋茂宏氏(高23回卒、大阪大学名誉教授、福井工業大学工学部長)より「君たちに伝えたいこと」と題した記念講演をいただいた。学園で過ごした中高時代のこと、世のお役に立たねばならないの思いで取り組んだ研究が何度も途中で頓挫したが前を向いて頑張ったこと、そしてレジリエンス(困難な状況に遭遇しても立ち直る力)の大切さを話された。講演のあと校長室に西嶋先生を訪れ指導を希望する生徒もいて後輩たちに今後の学園生活の指針となる一講演であった。

生徒は終礼の後に下校し、12時30分にはつま体育館で全教職員の記念写真を撮影した。

式辞

校長 金光 道晴



生徒の皆さん、そして先生方には、本日はおめでとうございます。今日は金光学園創立128年の記念式、128回目の誕生日であります。生徒の皆さんのお家では、家族の誕生日をみんなでお祝いしていると思いますが、今日は学園の誕生日ですから、全生徒・教職員で、心をこめて記念式典を挙行し、誕生日をお祝いしたいと思います。

しかし、今年の記念式も、残念ながら来賓の方々もお招き出来ず、生徒は教室にいて、オンラインで行っています。3年続けてありますから、全校の生徒・教職員が一堂に会して体育館で挙行する記念式を、多くの生徒が経験したことが

ないことになってしまい、今の中学生も、高校から入学した高校生も入学以来、全校生徒そろっての本部参拝は今日が初めての事だったと思います。

今朝は、3年振りに全生徒と教職員で金光教本部に参拝をし、代表で高三の金光文夫君と中3の矢野心陽さんの2人が、教主金光様に御礼とお願いのお届をさせていただき、教主金光様からは「本日は、おめでとうございます。ここまでの御礼を申し上げ、ここからより一層の御礼を申し上げますよう、お祈り申し上げます」とのお言葉をいただきました。

さて、毎年この創立記念式の校長式辞では、学園の歴史や学園にゆかりのある方や卒業生のことをお話していますが、今日は初代校長佐藤範雄先生の願われたことや、初代校長のお人柄について、学園草創期の生徒達が、初代校長に大切な薫陶を受けたエピソードなどをいくつか紹介したいと思います。

皆さんから向かって右の写真は初代校長の68歳頃のもので、学校案内などにも掲載されていますので、見たことのあると思います。向かって左にある肖像画はそれより20年ほど前の48歳頃のお姿であ

ります。創立当初の卒業生の方々が初代校長について残されている話は沢山あるのですが、今日は時間の関係もあり、数人の方の話をさせていただきます。改めて少しでも初代校長先生のことを偲ばせていただき、その教え、情熱、厳しさ、暖かき、人間味溢れるお人柄を皆さんに伝えることができたいと思います。





初代校長は21歳のとき63歳の教祖様のもとへ、今の福山市神辺町御領から参拝され、教祖様から「辰の年一心に信心せよ 大願成就させる 人を助ける身となれよ」というお言葉を頂かれたと伝えられています。そしてその後「人が助かりさえすればよい」という教祖様のお言葉を實現するためには、その教えを伝え、

世のお役に立つ人材を育成することが必要であるという思いを強く持たれ、学校を創設されたのであります。

最初にお話させていただくのは、磯部倫一郎という創立して3年後に入学した方の話であります。ちなみに1期生の卒業は8人、2期生は7人で創立当初はまだまだ学校としての形を成していなかったものでありますが、しかし、初代校長の思いは当時の生徒達には強く、深く響いていったと言われます。

さて、磯部倫一郎という方は、玉島の富田の方でありましたが、金光教に中学校ができる。それも自宅から通学も出来るという夢のような話で喜び勇んで、願書を持参し入学されたのであります。在学時代に、最も感銘を受けたのは、初代校長の「倫理」の時間だったといわれています。それは通常の教室ではなく、今の宗教の授業のように畳の上で教わったということですが。先生は常に和服を着ておられ、何事でも黒板にお話の題目を書かれ、囁んで含めるように丁寧に繰り返して説き聞かされ「いいか、わかったか？ わかったものは挙手しろ」と口癖のように言われたそうでありま

この倫理の時間の講義を受けたこと思い出は、他にも数多くの卒業生が述べています。初代校長は、授業や教室を離れ、それ以外の所でも、常に生徒に近づかれ、あらゆる機会に、様々な実例をあげてお話されており、磯部氏の言葉を借りれば「感受性の強い吾々少年の頭に叩き込まれた先生の魂は、以来ずっと吾々の頭を支配して尽きることがなく、ことあるごとに必ず佐藤範雄先生の教訓が甦る。先生は私にとっての守り本尊である。」とまで言われております。また先生は自ら進んで何事もやるというような気性で、いつも学生を励まされたようでありま

様々なご用で上京される度に、新しい書物、新しい理科などの教材などを生徒たちの勉強のために、仕入れてきておられたのであります。当時初代校長が仮住まいしておられた境内近くにあった吉備乃家という旅館のお部屋の書棚の本を、磯部氏がお借りすることもあったのですが、「読んだらちゃんと元のところへ入れて置けよ」と言われ、貸して下さったそうでありま

ろん、生徒達の勉強のために、いつも心を配っておられたというのであります。

磯部氏は卒業後半世紀以上たった、戦後になってからも、母校金光学園へかける思いの中で、「初代校長の魂は、即ちわが学園の魂であるべきである。時勢がどのように変化しようと、制度がどのように変革されようと、初代校長の魂は伝統として、厳に尊重されなければならぬ。初代校長の精神を後進たるものは逸脱してはならない。」という母校に対する熱い思いをずっと抱かれておられたのであります。

2人目は、長谷川雄次郎という方(4期生の方)のエピソードを紹介します。佐藤範雄校長の「豚小屋から人を出すのだ」という言葉は有名であります。教祖様のおっしゃる「この道は傘一本で道がひらける」という精神と相通じるものであります。そして創立当初の教室や施設が十分でなかった時代をよく「豚小屋時代」と表現されたと言われます。

長谷川雄次郎氏によると「『豚小屋から人を出す』というお言葉は、初代校長が抱負と確信を持ってよく勇ましく言っておられたが、自分たちはこの校長のそ

の言葉に励まされ、当時の生徒達もおのづから豚小屋に学ぶ身を、誇らしく自負していた。」と言われるのであります。そして、「初代校長は慈父であると共に慈母である。つまり父と母の厳しさと優しさの両面をもたれておられた方だった。」と言われるのであります。

6 回卒業の福田源三郎氏もやはり当時のことを振り返って「佐藤範雄先生は、やはりいつも『豚小屋から人を出す』と声を張り上げて言われておられ、自分たちに向かっても、常に自負心を持たせるように激励して下さいました。純粹無垢な自分達は本当にそうした意気を感じていた。」と話されています。

原田綱治という7期生(入学時には全校生徒130人を越えていた)の方はこんなエピソードを残されています。卒業前に学園の北側の山など金光町周辺の山でウサギ狩りをして、その肉で洋食を作らせ、送別会をしていたというのです。「生徒達が卒業してから、洋食の食べ方を知らんでは恥をかく」ということで、ナイフやフォークの置き方や、音を出さない食べ方を教えられたというのです。明治の終わり頃から大正にかけて、このあたり

の山でウサギ狩りをして卒業前の生徒に食べさせていたというのにもびっくりしますが、記録によれば少ない時でも数匹、多い時には10数匹のウサギが捕れたと記録されています。

私がこの学園の高3の時、もう何十年も前のことですが、その頃にはテーブルマナーという行事があつて、高3の生徒が全員で、岡山駅前ホテルに行つて、卒業前の行事として洋食の食べ方を習うということを行っていました。この初代校長の話聞いて、もしかしたらそのことが時代は変わつても、ずっと受け継がれていたのかとも思つたようなことでもあります。

最後のエピソードとして、8 回卒業の片島幸吉という方の「便所落書き事件」について話します。明治38・39年の頃(創立10年余りで新校舎が建設されて間もないころ)生徒の中に不心得者があつて、生徒の便所に落書きをしたそうです。その後で講堂(今の記念講堂)へ生徒全員が集められて、佐藤範雄先生は一同を見渡して、「この学校の建物は信仰のたまものである。それに対して落書きをするとは何事であるか。これでは本校の教育



をすることは出来ない、授業はやめる、これから現場の便所を見て、不心得者は申し出よ。」という厳しい宣言をされました。それから列をつくって一人残らず現場を見学させたというのであります。その便所の正面の壁には縦60cm横30cmほどの大きさで、軍専用の気球が入念に書いてあったというのですが、どういっわけか寄宿舎生であった片島氏が犯人と疑われたのか、他の寄宿舎生が犯人と思われるのか、校長室に呼び出され知知っていることはないかと聞かれたそうであります。他の通学生も調べられたりしたのだと思いますが、やがて、改めて全生徒を講堂へ集めて、「あの落書きは寄宿舎生の仕業でも通学生の仕業でもない。おそらく働きに来ていた工事関係者の書いたものであろう。」と言われ、「落書きは全部壁を落として塗り替えて修理するから、以後このような事を絶対に起こしてはならぬ」という事で解決がついたそうであります。「あの時の初代校長の名刺断が忘れられない。おそらく犯人は生徒に違いない。」と思ったそうであります。「叱るところはピシピシ叱り、戒めるところは厳しく戒めて、いつまでもぐずつ

かせず対処する。ああいうのが本当の教育精神と思われて懐かしい。ああいう教育精神の中で育てられた我々は、人間としての生き方の道を叩き込まれたように思うのである。」以上が片島氏の語ったエピソードなのです。ここまで紹介した方々は、初代校長に薫陶を受けた方で、後々金光教の中でも、一般社会においても、文字通り世のお役に立つ大変な大きな働きをされている方々ばかりであります。先程から色々なエピソードを聞いていただいてきましたが、どの話をとつても、初代校長佐藤範雄先生の深い信心と揺るぎない教育姿勢や教育に対する熱い思いや願いを感じずにはおれません。またそれを、生徒達に教え伝え導いていかれていることの尊さ、偉大さも思わせていただきます。このように教祖の教えに導かれた初代校長佐藤範雄先生の願いやその精神は、学園教育に脈々と受け継ぎ、伝え、繋げられているのであります。生徒の皆さんも私達教職員も、今日の創立記念式に臨んで、改めてその願いや建学の精神に立ち返り、それらが集約された金光学園の



合言葉を一層大切に、実践し、学園を発展させていかなければならないと思うのであります。私としては、初代校長佐藤範雄先生の願いとその魂を改めていただき直し、決して失うことのないよう、そしてその精神をどこまでも大切に、今後とも取り組んでまいりたいと決意を新たにしているところであります。皆さん

ん共々に頑張りましょう。最後に「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」の合言葉を申し上げて式辞といたします。本日は誠にめでとうございました。

所願表明

生徒代表 田淵 春成



私たちの金光学園は、今年で創立128年を迎えました。1894年(明治27年)に「神道金光教会学園所」として始まった金光学園は、今日まで様々な激動の時代を歩み、私達に受け継がれてきました。金光学園の長きに亘る伝統と多くの先人達のお働きに感謝し、128年のお年柄をお

祝いたいと思います。さて、皆さんは最後に涙を流した日のことを覚えていますか？そして、それはどのような場面だったでしょうか？感動して泣く、嬉しさのあまりに泣く、悲しくて泣く、赤ちゃんが産声を上げて泣く。このように、人は多かれ少なかれ涙を流す生き物です。私は人前で涙を見せたくないと思つて過ごしてきました。しかし、学園生活の中でどうしても涙をこらえることができなかつた、忘れられない経験が二度あります。その経験は自分自身を知ることにつながりました。私は、中学1年生から少林寺拳法を始めました。高校2年生で主将となつた際には、明るく楽しく、そして強い部活動にしたいと思ひ、精進してきました。尊敬する先輩方の背中を追ひ、同級生と競い合ひ、自分を目標としてくれる後輩の模範となるよう、力を尽くした5年半でした。高校2年生の秋に控えた県大会に向けて練習に励んでいる最中、病気を抱えた母が手術を受けることになりました。命の危険を伴ううえに、術後には3週間の入院を必要とする大きな手術です。幸い

にも無事成功し、予定通り3週間後には退院できるとのことでした。長い入院生活の中、たった一人で寂しい思いをしている母を少しでも元気づけたい。そう考えた私は、県大会で必ず良い成績を収めようと決意しました。県大会で上位2名が全国大会に出場できます。私は母に喜んでもらいたい一心で練習に打ち込みました。大会当日はとても緊張しましたが、全力で良い演武を披露することができました。その結果、2位となり、全国大会出場を決めることができました。電話で母親に良い報告ができた際には、嬉しさの余り、思わず涙がこぼれてしまいました。

全国大会では、他の選手と自分との技術の差に圧倒され、予選敗退となっていました。母はもちろん、部の仲間や先生方の期待を背負って出場したはずだったのに、無残な結果に終わり、とても悔しい大会となりました。岡山に帰ってきた翌日から、私は自分に足りないものを模索し始めました。自分に合ったトレーニングを課し、顧問の先生から頂いた助言を忘れないようメモにまとめ、これまでに以上に少林寺拳法に向き合うようになりました。高校3年生の6月に行

われる全国大会の県予選を1位で通過する。このことを目標に半年間必死に努力を重ねました。後輩と少しでも長く一緒に練習したい、全国大会でリベンジを果たしたいという気持ちが私のやる気を引き起こしました。準備は万端でしたが、残念ながら結果は2位でした。何とか全国大会出場を果たすことはできませんでしたが、目標としていた県大会で1位が取れなかったことがとても悔しく、周りに部員がいるのを知りながら、涙が止まりませんでした。高校最後の全国大会は準決勝で敗れ、決勝に進出することはできませんでしたが、自分の中では一番良い演武ができたと思っています。この悔しさは大学生になってから晴らしたいです。

5年半続けた少林寺拳法を通して、私は二度、涙を流しました。振り返ってみると、同じ2位という結果なのに、一方は嬉し涙、もう一方は悔し涙だったことを、少し不思議に感じます。しかし、どちらも高い目標を掲げ、ひたむきに挑んだからこそ、感情がこみ上げ、溢れたのだと考えようになりました。もしも、私の中に僅かでも気の緩みや妥協があったとしたら、きっと涙が流れることはなかったら、



勉強漬けの生活を送り、毎週のように模擬試験を受験し、精神的にも体力的にもつらい時期です。しかし、仲間同士で切磋琢磨しながら、支えてくれる家族や先生方に感謝しながら、最後に嬉し涙を流せるように、決して諦めることなく努力し続けます。そして、その先で大きく成長した自分に出会いたいと思っています。後輩の皆さん、勉強でも、部活動でも、学校行事でも、何でも構いません。自分のしたいことに全力で向き合ってください。強い願いを抱いて、まっすぐに挑戦してみてください。必死に重ねた努力によって流した涙が、未来の自分を作ります。きっと見える世界が変わります。そして、皆さんの手で「人をたいせつに、自分をたいせつに、物をたいせつに」しながら、学園の新たな歴史を紡いでいってください。最後になりましたが、金光学園のさらなる発展を願い、所願表明とさせていただきます。

お届け

おはようございます。金光様、日々ご祈念いただき有難うございます。

私たちが通う金光学園中学・高等学校は、今年創立128年を迎え、本日創立記念式を挙行させていただきます。

今年度は3年振りに全校生徒が揃っての本部参拝となりました。全生徒を代表して、これまでお世話になったすべてのものに感謝し、お礼申し上げます。

いまだ新型コロナウイルス感染症の影響があり、様々な学校行事が制限されるなど残念な思いになりました。しかし、出来るだけの取り組みを行い、成果につなげることができました。学園生全員がこれからの金光学園の発展に向けて、より一層努力していきますよう、決意を新たにしているところであります。

特に、高校3年生におきましては、受験を目前に控え、追い込みの時期に入っておりますが、全学年の生徒一人ひとりが健康で、また、それぞれの目標を達成することが出来ますよう、お取次ぎをお願いいたしますとともに、今後ともお祈り添えをいただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

有難うございました。



高3 生徒代表 金光 文夫
中3 生徒代表 矢野 心陽

「金光学園と北海道・沖縄」

今年6月に高校の修学旅行を行うことができましたが、昨年・一昨年は新型コロナウイルスの影響で実施できませんでした。3年振りの実施でありました。そして本来なら、海外はオーストラリアとシンガポール・マレーシアコース、国内は北海道と3コースに分かれて実施するところでしたが、まだ海外への渡航は難しく、この度は国内の北海道と沖縄の2コースで実施しました。その修学旅行の生徒の紀行文は、例年なら前号の7月号の「やつなみ」に掲載されるのですが、今年12月号に掲載されることになりましたので、この「道33」では金光学園と北海道と沖縄の関りについて書かせていただくことにしました。

まず初めに「北海道」についてです。話は学園の草創期に遡りますが、初代校長佐藤範雄先生の薫陶を受け、北海道の発展に大きな貢献をした2人の卒業生について紹介しようと思います。金光学園の創立は明治27年(1894年)ですが、初代校長は明治41年(1908)、金光教の巡回布教のため北海道にわたり、布教のかたわら開拓地の実情を見聞し、帰校後その様子を詳しく生徒達に訓話し、北海道への雄飛を呼び掛けたというのです。その話に感激した生徒の一人、岡本政道氏(10回卒)は翌年卒業すると同時に、北海道移住を志して移住地の調査を進めた後、金光教の信奉者を中心に団体移

民の募集を行い、その年の10月、岡本政道氏を団長とする10戸が金光教本部の援助を受けて、北見地方の紋別郡滝上の地に移住しました。さらに43年(1910年)にも第2陣として8戸が移住していますが18戸とも現在の井原市美星町の金光教黒忠教会の人たちでありました。その後団長であった岡本政道氏は戦後初の公選で滝上村長となり3期務めて勇退しましたが、滝上にはこの岡本政道氏の銅像が今も立っていますし、「金光」の地名も残っています。

この岡本政道氏の影響や北海道移住の動向や、初代校長との触れ合いの中で次第に薫陶を受け北海道へという気持ち膨らませていったのが、岡本政道が卒業して3年後に入学し、後に「薄荷(ハッカ)の神様」と呼ばれるようになる加賀操(18回卒、美星出身)です。加賀操は金光中学校(現金光学園)を卒業後、北海道大学農学部に入學、卒業後は北海道庁の職員(産業部農政課勤務)となり、薄荷の生産や検査などの研究を進め、現在の薄荷事業の元を築き、「北見薄荷」を隆盛に導いた人物であります。現在北見ハッカ記念館にはその事績を讀えそれを顕彰するための展示室に「加賀コーナー」が設けられ、経歴や研究文書等が掲示・展示されています。現在北海道には金光教の教会は札幌の5教会をはじめ約30の教会がありますが、先日の北海道修学旅行では、道央地区の教会連合会の先生が、札幌のホテルにわざわざお越しいただき、生徒へジュースなどの差し入れを下さったことは誠に嬉しく有り難い事でした。ちなみに、長年の九州修学旅行やその後3年間は信州修学旅行を行いました。それにかわって北海道修学旅行が始まったのは平成8年のことで、26年前に

なります。当初は学年全員が北海道に行っていました。平成16年からは、海外の2コース(当初はオーストラリアと中国)と北海道コースの3コースから希望のコースを選んでの修学旅行となりましたが、今年3年ぶりに北海道へ行く事ができたのであります。

次に沖縄についてです。金光学園が最初に公的に沖縄を訪れたのは、平成4年(30年前)のことです。それは修学旅行ではなく、音楽部コースが混声合唱団として40人余りの部員と顧問が、沖縄で開催された第16回の全国総合文化祭に岡山県代表として出場したのが最初であります。その時金光学園から音楽部コースが沖縄に来るといことで、沖縄県では1つしかなかった金光教那覇教会の林雅信先生や信者さんたちが、大変喜んでいただき、大歓迎をして迎えてくださいました。その5年後の平成9年から、中学の修学旅行で長く続いていた四国旅行は瀬戸大橋などの開通によって、いつでも行ける場所となったため、行先を沖縄に変更することになりました。そして平成9年から、沖縄修学旅行が始まり、現高3が中3の時に行った最後の沖縄修学旅行まで23回を数えました。この23回にわたる中学の沖縄修学旅行でも那覇教会の林先生や信者さんは毎年欠かすことなく、那覇空港へ「めんそーれ(ようこそ) 沖縄へ」という手作りの横断幕と金光教の教旗を持ってお出迎えとお見送りも頂き、毎年空港では貴重なお話を頂きました。言うまでもなく沖縄は太平洋戦争で日本の敗戦が濃くなってきた、1945の4月から6月まで、米軍が上陸して地上戦が行われた所で、24万人とも25万人ともいわれる人の命が失われた所でありました。この沖縄修

学旅行は平和学習の一環としても位置づけられて行ってきましたが、年によっては、林先生にホテルまでお越しいただき、40年以上にわたって沖縄での遺骨収集に取り組んでおられることなどはじめ、平和の大切さや命の尊さなどのお話を聞かせて頂きました。しかし、現高2は中3の時にコロナの感染が始まったため、沖縄修学旅行には行くことができませんでしたし、現高1からは中3では沖縄修学旅行にかえて、オーストラリアでのグローバル研修を行うことになりましたので、(結局オーストラリアにも行くことができなかった)現高3が中学の時に行った沖縄修学旅行が最後となったのであります。その年の秋に首里城が火災で焼けてしまい、今は沖縄県の総力を挙げて再建に向けて取り組んでいます。現高3は火災前の首里城を見学したのも最後となりました。そのようなことで、今後は学園修学旅行として沖縄を訪れることはないと思いましたが、前述したように今年、高校の修学旅行が北海道と沖縄に分かれて実施することになったのであります。今年、私自身としても6年ぶりに、それも高校の沖縄修学旅行に団長として同行させていただきました。そして、長年お世話になった那覇教会の林雅信先生や、沖縄戦で12人の家族親族を失われた方で、語り部として15回以上にわたり、学園生に大切なお話をいただいた安里要江さん(2020年に99才で亡くなられる)の御霊様に改めてこれまでの御礼を申し上げることができました。

このように北海道も沖縄もわが金光学園にとっては緑のある所であり、大切な所であります。今回の「道」でその関りの一端をご紹介させていただきました。

「好き」を丁寧に見つめて

書家・玉葉会主宰 中村 文美（高47回卒）



金光学園生の皆さん、こんにちは。
現在、私は大阪府吹田市に住み、大阪（吹田）と広島（福山）に書道教室を持ち、両府県を往復しながら書家として活動しています。家族は同じく書家の夫と、2歳の娘が一人。学園時代は、「国語科の教員になります」と言っていました。

実際は想像もしていなかった場所に暮らし、想像もしていなかった職業に就いています。しかしそうなたきっかけもまった学園にあったのかもしれない。

高校3年生の時、瀬戸内出身で日本を代表する画家、平山郁夫画伯が金光学園に來校されました。学園では毎年、先生方のご尽力でプロのフラメンコダンサーの方を招いたり広島交響楽団の方を招いたりして一流の文化に触れる機会を作ってくださっていました。そしてその年のゲストが平山画伯。当時、美術部に所属し、毎日のように絵を描いていた私は「日本画の神様に会える」と、ずいぶん緊張したことを覚えています。その頃描いていた平山画伯の作品模写（恥ずかしいくらい下手だったはずですが）を目にした画



伯は穏やかな眼差しで「がんばってください。たくさん描いてください」と握手をしてくださいました。温かで厚みのある手でした。「大好きな絵、大好きな画伯」に感激した私は、急に「東京藝大（平山画伯が当時の学長でした）に行きたい」と言い出しました。高3のその時期、A

判定の出ている志望大学をやめて、全く対策のできてない美大・・・。親も当時の先生方も驚いたと思うのですが、その時に「やめておけ」と言わずにいてくれました。むしろゆつくりと見守ってくれたことで、その時初めて自分の思いについて考えられたのかもしれない。

東京藝大に進みたいのはなぜか？美術がすきだから。就職のため？ではなく。じゃあ、当時第一志望だった岡山大学文学部に進みたいのはなぜか？国語の教員になりたいから？いや、そうではなく・・・文学が好きだから。（当時は井上靖の小説や上田敏の訳詩などを好んで読んでいました。）

そして結局は元々第一志望だった岡山大学文学部に進学しますが、それまで「国語科の教員」と言っていたのは「文学が好き」の先にある

職業としての一つの可能性でしかなく、それそのものが私の中で絶対ではないということ、偏差値だとか、点数だとか、就職のためだとか、（もちろんそれもありだと思いますが）そういうことではなく、自身の「好き」がそこにあるのだと確認した出来事でした。当時のこの右往左往があつてもなくても大学への進路は同じだったかもしれない。ですが、このことは大切な岐路だった気がしています。

大学に進学した私は、好きな文学を学べるのが嬉しく、当時は年間20冊くらいの本を読み、文学のレポートや論文を書いていました。そしてやはり「美術が好き」なので、同じ大学の特別美術コースの教授のところにも訪ねて行って、陶芸も学び始めました。昼間は文学部で論文を書き、夜は特別美術コースで陶芸を学び、と「好き」な文学・美術両方を学ぶ環境を手に入れました。

そんな中で、今の仕事でもある「書道」に出会いました。小・中学生の間、いわゆる「お習字」には通っていましたが、芸術としての「書」に触れるようになってきたのはこの時からです。初めは「長くできる趣味になるかな？」くらいの気持ち



だったので、改めて考えると「文学が好き」と「美術が好き」が交差する場所を見つけたのかもしれない。「文学」を素材として、芸術作品を生み出すのですから。

大学院を出た私は、可能性の一つとしての修士資格も国語科の教員免許も取りながら、教員採用試験は受けず、かといって一般企業への就職活動も一切しないまま、陶芸と書道が続けていました。

陶芸は駆け出しではあるものの、すぐにギャラリーでの展示販売が決まったり、いくつかの賞をいただいたり、恵まれていたと思います。

書道もまたすぐに、ご近所の方たちが5人集まって「教えてよ」と言い始め、教室が始まりました。「教員になるのかな」と思っていた時期もあったからか、生徒とともに学ぶ環境は性に合っていたようで、ありがたいことに毎年毎年生徒が増えていき、それに伴って教室数や時間数も増え、とうとう陶芸に充てる時間がなくなりました。自身の「好き」に生徒たちの「好き」が重なって、書道の比重が増えたのです。そして「気づいたら書家だった」、そんな風に感じています。

う、具体的な目標をもってというものはありません。もちろん可能性の一つではありますが、道端で見つけたそれらは、一見役に立たないかもしれない。他の人には目にも止まらないかもしれない。でも自分の「好き」が反応して集めたものです。スペックだとか、点数だとか、金額だとか、便利さなどの理由で集めたものよりも、私にとっては何か根源的なもの、生きるための力になったような気がしています。

だから今、あの懐かしい学び舎で学ぶ皆さんが、自分の歩いている道で、なにかキラリと光る「好き」なものに出会えたら素敵だと祈っています。一つでも二つでも。

中村 文美プロフィール

書家

大阪府吹田市在住（広島県福山市出身）

師・黒田賢一先生 岡嶋華笠先生

正筆会総務理事・読売書法会理事・日本書芸院一科審査員・日展入選4回

玉葉会主宰・Atelier すゞり代表

JR岡山駅に題字&モニュメント制作

JR西日本ふるさとあつ晴れ認定委員

岡山大学大学院 言語文化学修士

国語科教諭専修免許取得

【主な展覧会】

2008 初個展「空をゆくものたちへのオマージュ」（ギャラリーくわみつ／福山市）

2010 個展「めでたづくし」（アトリエ&カフェZ／岡山市）

2013 個展「水の音」（ふくやま美術館／福山市）

2015 個展「水の音」（アトリエ&カフェZ／岡山市）

Ayami NAKAMURA & Yumi ISHIKITA EXPOSITION（ギャラリーメタノイア／パリ）

2017 個展「椿恋文—La lettre d'amour de Camelia—」（Sazanka／パリ）

個展「平家恋文」（Roonee247／東京都日本橋）

個展「平家恋文」（ふくやま美術館／福山市）

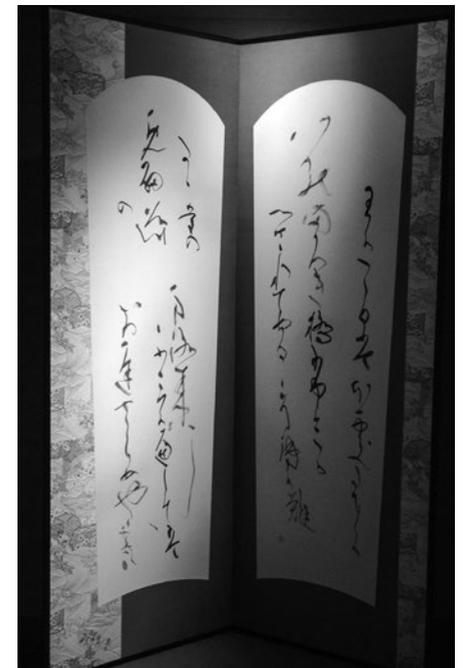
2018 個展「琥珀の文箱に文字を集めて」（アトリエ&カフェZ／岡山市）

2020 二人展「うたう布 くちざさむ文字」（アトリエ&カフェZ／岡山市）

こうして方向は「書」というジャンルに集約され、教室を運営する一方で、自分自身の表現として伝統的な書の内容や、立休・インスタレーションでの書作品などを、各地の美術館やギャラリーで発表するようになりました。福山、岡山、大阪、東京、パリと個展やグループ展を開催し、自身の「好き」は周囲の人たちの「好き」と共鳴するのを感じながらの活動となってきました。

結婚して大阪に居を移し、子どもが生まれ、状況はその都度変化していきますが、これからも「好き」が重なり、共鳴することを楽しみながら進んでいきたいと思っています。

これまでを振り返っての実感ですが、「好き」という思いは想像以上に強い力になるのです。そのための積み重ねも努



力もさほど苦にならず、むしろ喜びになるのですから。

私から学園生の皆さんに、有益なアドバイスや具体的な提案ができるわけではありません。ですが、私にとつて学園での時間は、今歩いている道で何か心惹かれるものに出会うための時間—例えばきれいな石ころだったり、面白い虫だったり、変わった花だったり—そしてそれが「好き」なのだと思える時間だったのかなと思います。それは将来、地質学者になる、昆虫学者になる、園芸家になるとい

メタセコイヤ

金光道晴校長先生 叙勲の栄に



金光道晴校長先生には、秋の叙勲において、瑞宝小綬章の栄に浴されました。先生は大学卒業後昭和50年4月に金光学園に奉職され、社会科教諭・担任・学年主任・教務課長などを歴任されました。

部活動では高校硬式野球部監督として20年間、その後8年間部長として活躍され夏の大会準決勝に二度導かれました。

平成15年4月から金光学園中学校教頭、平成19年4月から金光学園中学校副校長、平成23年4月から金光学園中学・高等学校に就任されました。この間、心の教育を土台に生徒一人ひとりを真に大切にする学園の良き校風の継承・発展に取り組みられ合言葉である「人をたいせつに自分をたいせつに 物をたいせつに」を実践され、建学の精神である「世のお役に立つ人材の育成」に尽瘁されています。また、グローバル化が進展する国際社会において外国語教育のみならず人的交流に積極的に取り組まれ、韓国春川女子高校、オーストラリアラッドフォードカレッジとの姉妹校提携に尽力されました。アジア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカ、オセアニアなどから毎年100名を超え

る外国からの訪問を受け入れるなどグローバル教育を推進されました。さらに、文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール・スーパーグローバルハイスクールアソシエイトの認定を受けるなど探究力育成にも取組まれました。

平成30年4月から今日まで岡山県私学協会会長として岡山県の私学教育の発展にも尽力されています。この間、平成24年9月に岡山県私学教育功労者表彰、平成30年11月に教育者文部科学大臣表彰を受賞されました。

今回の受賞は、私たち金光学園に関わる者にとりましても誠にめでたく共に喜び合いたいと存じます。金光校長は、「この度の秋の叙勲に際しまして、はからずも瑞宝小綬章拝受の栄に浴しましたことは、もとより金光学園や岡山県私学協会の代表としての叙勲であります。これまでの金光学園の同窓生・保護者・教職員の皆様方の長年にわたる心温かいご指導ご支援の賜と深く感謝し、心から御礼を申し上げます。」と言われています。

金光道晴校長先生には、今後も健康に気をつけられまして益々ご活躍されますよう関係者一同祈念申し上げます。

山本善直中学教頭、谷野一忠教諭 岡山県私学協会功労者表彰を受賞

令和4年7月28日(木) 岡山県私学教育研修会において山本善直中学教頭と谷野一忠教諭が、岡山県私学協会功労者表彰を受賞されました。おめでとうございます。引き続き金光学園教育にご尽力下さい。



この度岡山県私学協会より岡山県私学協会功労者表彰をいただきました。国語教師・中学教頭という立場で今まで金光学園に勤めさせていただいたことに心より感謝し、関係ある皆様に厚く御礼申し上げます。置かれた立場を大切にして、金光学園にご縁のある全ての皆様のために、心血を注いで参りたいと思っています。ありがとうございます。

中学技術という少々特殊な教科で、長く務めさせていただいたことを、表彰していただき、もったいない気持ちでいっ

ぱいです。作業が中心の教科であるので、他の教科とは違った生徒の姿を見て、新しい発見をさせてもらいました。これからも新しい発見させてもらうべく頑張っていこうと思います。



第35回国際平和ポスターコンテスト にて多数受賞

金光ライオンズクラブ主催による第35回国際平和ポスターコンテストで、中一の福島宗佑くんが最優秀賞を、松永奈々さん、生藤紗知さんが優秀賞を、白神凜さん、古宮萌衣さん、生藤紗々さんがライオンズ賞を受賞しました。10月27日に校長室で行われた表彰式で、ライオンズクラブ会長から賞状が手渡されました。

「僕にとって平和とは、戦争や争いがなく、お互いの国を尊重し、国と国とが助け合い誰もが毎日穏やかに過ごせるようにすることです。そのために必要なのは、互いの国を知り、違いを認め、平和

について考えていくことだと思います。今回のテーマは、「思いやりのあるリーダーになるう」でした。一人一人が思いやりの心を持って、平和のために自分ができることを実践していける世の中になればいいなという思いを込めてポスターを描きました。世界が平和になりますように」と語るの、最優秀賞を受賞した福島くん。

皆さん本当におめでとうございます。

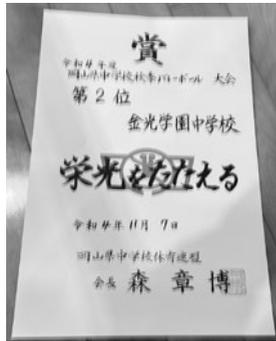


活躍おめでとう

春高予選を終えて

高2 一谷 優陽

11月5日から11月13日まで、春の高校バレー岡山県予選がありました。高校生にとっては最後の大会です。練習から大きな声を出してチームを盛り上げたり、後輩の私たちに声掛けをして勇気づけてくれました。レギュラーに、高校一年生が多い中で緊張せずに、いつも通りプレーできたのは、高校三年生のおかげだと思っています。



毎年優勝旗を持って帰っており、自分たちは持ち帰ることができなくてとても悔しかったです。しかし、練習試合を組んでくださった先生や応援をしてくださった保護者の方には感謝しています。気持ちを切り替えて2月に広島県で行われる中国新人大会に望みたいと思います。これからも応援よろしくお願います。



岡山東商業高等学校との決勝戦は1-3で負けてしまいました。皆いつも以上のプレーが出来ていました。劣勢でチームの士気が下がってしまっている時でも、高校3年生が1人1人に声をかけて勇気づけてくれたのを今でもよく覚えています。

これからは、私たち高校2年生が最高学年になるので、高校3年生を見習い、今大会の悔しさを忘れずに、日々練習していきたいと思っています。これからも金光学園バレーボール部の応援をよろしくお願います。

新チームで挑んだ県新人大会

中2 森川 隼汰

僕は11月6、7日の2日間で行われた岡山県中学校秋季バレーボール大会に出



インターハイを終えて

高3 田淵 春成

今回の全国大会が自分にとって高校最後の試合だったので、悔いが残らないよう、ひたむきに練習に取り組んだ。結果は準決勝進出。最後に最高の演武ができて良かった。ここまで頑張ってきたのは、たくさんの人達の応援あってこそだと思ふ。支えてくれる人達に感謝しながら、大学でも頑張っていきたい。

全国中学生大会を終えて

中3 西山 和志

僕は、第十六回全国中学生少林寺拳法大会に出場し、準決勝まで進出しました。初めての全国大会は、想像を超える緊張感と、1点の重みを知る貴重な経験になりました。また、全国体会で通用する演武をするために、日々の練習の大切さを改めて実感しました。

高校生になっても、身心を鍛え、より強い拳士を目指して努力を続けたいと思います。応援よろしくお願います。



中国大会を終えて

高3 柴田真喜人

私は6月に広島県で行われた第69回中国高等学校柔道大会に出場することができました。私自身初めての中国大会だったので、会場の熱気や選手の雰囲気などが今まで体験してきたどの大会とも一線を画しており、この中で試合をするのかと半信半疑な気持ちでした。

そのような中で始まった大会でしたが、結果は一回戦敗退。何もさせてもらえぬまま終わってしまいました。後で確認してみると私が戦った相手の選手がそのまま大会優勝、また全国大会でも3位という結果を残しており、部活動最後の大会でそのような選手と戦える機会を得て良かったと感じています。

このような貴重な機会が得られたのも、偏にいつも一緒に練習してきたチームメイト、活動の節々で指導してくださった顧問の先生方、そしていつも支えてくれた家族あつてのことだと感じています。

この中国大会を通して、自分の知らない世界をまた1つ見れたような気がします。今回の経験が今後何かの役に立つかなどはまだ分かりませんが、少なくとも

自分の中では一生の思い出として残ると思います。改めて、この大会出場に関わってくださった人たちにお礼申し上げます。ありがとうございます。



やつなみ保護者会のページ

ほつま祭「学園を包み込むもの」

中2保護者

幼い我が子を通して金光学園を訪れる度に感じるようになりました。身が引き締まる様な、胸が躍る様な、そして心が落ち着く様な感覚。それらが適度に溶け込んだ心地良い雰囲気は、来校時の楽しみになっていました。

時は巡り、コロナ禍において最大限の対策と協力を以って実現できた今年度のほつま祭は、我が子と私にとって大変有意義なものとなりました。テーマに沿って深掘りした知識と考察が光る展示はまさに「探究」でしたし、迫真の演技や工夫を凝らした舞台演出の演劇も秀逸で、どちらも心に響きました。

ほつま体育館での演目は圧巻でした。日々の練習を積み上げて来た人のみが纏う凛とした佇まい。そして本気で臨む姿の凄みは、最後尾に座っていても強く伝

わって来ました。そしてなぜか懐かしい気持ちになったのです。

頑張る人が放つ質の高い熱量と誇り、披露できる喜び。頑張る人に向けられた憧れや、自分もこうなりたいと思う純粋な向上心。そのどちらも温かく見守り、サポートしてくださる先生方や保護者の愛情。館内を満たす雰囲気はあの日感じた心地良さと同じものでした。学園を日常的に包み込むものはこれだったのだと気が付きました。

ほつま祭の成功は、ほつま祭の為に役割を全うしたすべての皆様のご協力の賜物であり、今後の励みや糧に成るものと思います。素晴らしい経験をさせて頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。そして帰り道にしみじみと思ったのです。金光学園に我が子を託して良かった。本当に良かった。



笑顔の体育会 高校体育会

高2保護者

今朝も暑い。バタバタしながらお弁当を作る。慌ただしく送り出し、自分の身を支度しようとした矢先「ゼッケン忘れた！すぐ持ってきて」の電話。「何で昨日付けてないの！」と内心思いつつ、急いで学校へ向かう。校庭で小言を言いながらゼッケンを付ける。ようやく落ち着い

「2022年 友愛セール」ご協力の御礼

保護者の皆様におかれましては、平素よりやつなみ保護者会へのご理解、ご協力を賜り誠にありがとうございます。

今年度も当初は、昨年同様、新型コロナウイルスの影響で開催できるかわからない状況下ではありましたが、子どもたちや学校の先生方の開催に向けての熱意と徹底した感染対策の努力が実り、ほつま祭を9月10日・11日の2日間無事に開催する事ができました。

準備期間が限られる中、素晴らしいチームワークで金光ベアなど多くの素敵な作品を創り上げて頂いた保護者の皆様、HCCサークルの皆様、ステンドグラスサークルの皆様、そして積極的に購入に御協力頂いた保護者の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。友愛セールでご協力頂いた収益金については子どもたちの学びの為に大切に使用させていただきます。

今年も制限された中でのほつま祭でしたが、新型コロナウイルスの影響も少しずつ緩和されてきています。来年こそは、もっとリアルでハイブリッドなほつま祭になることを願っております。

最後に、本年度の友愛セールにご尽力頂きましたすべての皆様に、心より感謝、御礼申し上げます。

金光学園やつなみ保護者会 会長 初村 和彦

て競技を見る。一〇メートル走だ。高校生にもなると走る姿も迫力がある。転んだ。エビ反りになった。前転でゴール。一〇満点だ。保護者席で我が子でなくても、手を差し伸べたくなり、心配し、笑顔になった。玉入れでは、玉が上手く投げられない幼稚園の頃を思い出した。「大きくなったなあ」と実感。競技だけでは無い。笑顔で応援する姿。友達と肩をくむ姿。楽しそうに会話する姿。何気ない全てが微笑ましい。夕食の時にゼッケンを忘れた話をした。今日の出来事や過去の運動会の事。色々出てきて、会話が盛り上がる。体育会を観覧出来なかった家族にとっても、このたわいのない話は一番美味しいおかずだ。こんなにも楽しくて幸せな時間を下さった全ての先生方、職員の方に心より感謝いたします。子供達と保護者に素敵な時間をありがとうございました。

秋晴れの体育会

中2保護者

娘が金光学園中学校に入学して2年目

の秋、念願の有観客での中学体育会が開催されました。

先生・生徒・保護者の強い思いからでしょうか、日中はとても暑くなり、それだけ生徒たちのやる気を感じました。

初めて見る、本格的な聖火台、息の合ったダンスによる応援合戦、ひたむきに取組む競技。どのひとつひとつにも生徒の強い思いと一生懸命さが伝わりました。その中で、中1男子200mで20年ぶりの新記録が生まれました。声援を我慢しての応援のため、新記録の案内の時には大きな拍手に包まれました。

朝練に、放課後練習に取り組んだ応援合戦。広い運動場を最大限に利用する生徒たちの動き、気の合ったキレキレのダンス、代表応援団の声による応援合戦、点数をつけるのが難しい。一緒に観ていた小学4年の弟の採点と私の採点が全く異なりました。それが応援合戦の魅力なのだ、親子の会話も広がりました。

クラス対抗リレーは、速い。その一言につきます。中学3年生の走者紹介とポーズもよかったです。「青春は密である」が

現在進行形である生徒たち。まだまだ制限はあるけれど、このキラキラした時を充分楽しんでください。

体育会開催にあたり、ご尽力くださいました先生方には大変感謝しております。ありがとうございました。



表紙の言葉

中2 坪井 杏璃

「小春日や 石をかみ居る 赤蜻蛉」
飛び立とうと石の上で体を温めているとんぼ。晴れていても肌寒い天気です。人がかなり近づいても、赤とんぼは逃げずにじっとしています。
堂々と、力強く、空を舞えるようになるまで、力をためているかのようです。

また、冬のように冷たい空の色と鮮やかな木々の緑色。赤とんぼとの対比が目を引くのではないかと思います。
版画を作るときは、赤とんぼとそれを見る私の距離感を表現したくて、工夫を凝らしました。赤とんぼは、画像を見ながら丁寧に描き、体の部位に応じて色を少し変えてみました。

世の中に力強く飛び立てるように、私もこの学園生活で力をためていこうと思います。

会報

令和4年度2学期、新型コロナウイルス感染症の影響が収まりつつある中、やつなみ保護者会の校内での活動は、感染対策をとった上で通常に近い形で進められていった。うれしい報告として、8月の全国高P連石川大会で、やつなみ保護者会の活動が評価され全国高P連会長表彰を受賞した。

やつなみ保護者会地区会 今年度は、7月に全23地区の中、21地区で地区会を開催した。久しぶりの開催で、地区それぞれの話で情報交換ができた。

第3回評議員会・第2回全役員会 8月24日(水)予定通り評議員会・全役員会が開催された。主な議題は、7月に実施した地区会の総括と9月のほつま祭友愛セールの取組などだった。三役さんや部長さんの緻密な計画で打合せが進んだ。**オープンスクール** 今年度は7月24日(日)

8月27日(土)の2回オープンスクールが開催され、三役さんが分担してフリートークコーナーで相談に応じた。

ほつま祭友愛セール 今年度のほつま祭では、友愛セールで物品と金光ベアの予約販売をオンラインで実施し、全家庭に對して物品や手作り作品の販売を進め、大きな成果を残した。(収支決算については別項参照。)また、サークル活動として、ハンドクラフト・ステンドグラスの2サークルも教室を開き、来場者に喜ばれた。

金光教大祭奉仕 10月2・6・10日の3日間に行われた秋の生神金光大神大祭に評議員さんが奉仕した。

また、12月11日に行われた布教功労者報徳祭にも評議員さんが奉仕した。いづれも全国の参拝者の方々の奉仕(接待・消毒など)をして大変感謝された。

【R4年度 友愛セール 決算報告】 (円)

収入	予約販売 (物品)	723,000
	予約販売 (ベア)	276,300
	当日販売 (ベア)	371,600
	先行販売 (ベア)	31,700
	ハンドクラフトサークル物品販売	56,000
	ステンドグラスサークル物品販売	46,000
	予約販売売上追加、寄付等 ^{*1}	250,000
	合 計	1,754,600
支出	手作り作品材料他諸経費 (ベア)	54,428
	友愛セール用予約販売物品購入費	611,354
	合 計	665,782
収支	(収入-支出)	1,088,818
使途	赤十字事業資金へ ^{*2}	20,000
	社会福祉歳末 (歳末助け合い) ^{*2}	50,000
	公益財団法人日本ユニセフ協会へ ^{*2}	3,000
	合 計	73,000
残高		1,015,818

^{*1} 地区・学年・有志等の寄付

追加売上 (ステンドグラス物品販売)	80,000
追加売上 (ハンドクラフト物品販売)	100,000
玉島東地区	30,000
玉島西・黒崎地区	10,000
福山第4A地区	30,000

^{*2} 例年寄付をさせていただいている団体

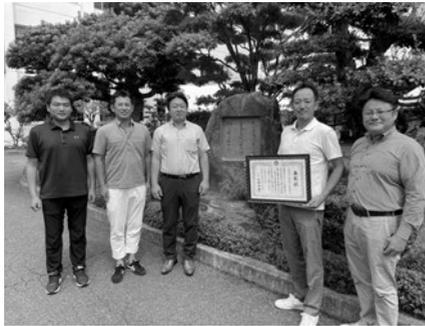
第4回評議員会 11月24日(木)の評議員会は、研修・出張報告の後、各専門部の活動内容の総括と報告、金光教大祭奉仕、教員診断のお願い等について協議した。

諸会合

○7月29日 県P指導者研修会。オンライン。蒲生指導部長参加。

○8月6日 県高P連会長研修会。ピユ

- アリテイまさび。佐藤副会長参加。
- 8月25日 全国高P連石川大会。いしかわ総合スポーツセンター。初村会長、大目副会長、小野副会長、岡田副会長参加。やつなみ保護者会の活動が評価されて、全国高等学校PTA連合会会長表彰を受賞した。
- 9月16日 中国地区私立中高保護者会会長等懇談会。松江サンラボームらにも。初村会長参加。
- 9月27日 幼小中指導者人権研修会。オンライン。中川指導部員参加。
- 10月24日 県私学秋季研修会。ピユアリテイまさび。佐藤副会長、橋本監事、恵谷監事参加。
- 10月26日 浅口・里庄母親委員会研修会。嘉美心酒造 木村副会長、宮田副会長参加。
- 11月14日 県高P連指導者研修会。ピユアリテイまさび。大目副会長参加。
- 11月16日 県外視察。崇徳中学校・高等学校。初村会長、岡田副会長、小野副会長参加。



やつなみ保護者会全国表彰について

8月25日(木)第71回全国高等学校PTA連合会大会石川大会で、金光学園やつなみ保護者会が全国PTA連合会会長から団体表彰を受賞しました。日頃の積極的な活動が生徒の健全育成と地域の教育振興に貢献したことを讃えられたものです。会場のいしかわ総合スポーツセンターでは、会を代表して初村和彦会長が表彰状をいただきました。

(会長感想)

保護者の皆様におかれましては、平素よりやつなみ保護者会へのご理解、ご協力を賜り誠にありがとうございます。8月25日から26日までの二日間石川の地で「輝く未来への礎」をスローガンに第71回全国高等学校PTA連合会大会2022石川大会が開催されました。そこで日頃のやつなみ保護者会の活動の功績を讃えられ全国表彰を頂きました。

これは校長先生を初めとする先生方や、やつなみ保護者会歴代会長を初めとする保護者の皆様の功績の賜物であり厚く感謝いたします。引き続きやつなみ保護者会の活動にご理解ご協力の程よろしくお願い申し上げます。



金光学園わかばプロジェクト主催 「金光学園」児童サマースクール開催

金光学園わかばプロジェクトでは、5月から7月にかけて行った「小学生のための土曜チャレンジ講座」に続いて、この夏「児童サマースクール」を実施した。

「サマースクール」には、東は岡山から、西は尾道から、小学3年生から6年生の児童67人が参加した。7月20日から8月24日の間、日曜日と休日を除く28日間、朝は8時から、夕方6時まで、学習や様々な体験やイベント、コンサートなど充実した夏休みを過ごした。(詳細は別項を参照)

参加者アンケートによると、参加して満足した人(82%)、まあ満足(23%)と、参加者の多くの方が満足してくださり、課題点もありながら概ね良い結果になったのではないかと考えている。来年もぜひ実施してほしいとの声も沢山あり、わかばプロジェクトの活動目的である、地域教育に貢献する点においても、今後続けていきたいと考えています。

「参加者アンケートより」

■サマースクールに参加して、良かったことは何ですか。

《児童の「意見」※抜粋

- 宿題を早く終わらせたこと。●友達(他校含め)がたくさんできたこと。●イベントや講座が楽しかった。(●キャンプが楽しかった。●好きな本がたくさん読めた。●友達と一緒に勉強ができた。(2)●生活のリズムが崩れなかった。●絵画・ポスター教室、感想文講座が良かった。●留学生に会えたのが良かった。●勉強で分からなかったとき、先生に教えてもらったこと。●自分から積極的に行動することができた。●映画鑑賞の③が特によかった。●いろいろなイベントで協力して活動ができた。●いい先生と出会えた。●スタッフの方がみな優しくなった。●好きな将棋がたくさん

できた。●お世話をしてくれた学園のお兄さんお姉さんが皆礼儀正しく落ち着いていてすごいと思った。●自分から勉強したり、知らない友達とも話ができるようになった。

《保護者の「意見」※抜粋

- 普段できないことや、本物志向など貴重な体験を沢山させていたことが保たれた。●他校の児童と沢山友達になれたこと。●規則正しい生活リズムが保たれた。●読書感想文や絵など困っていましたでしたが、しっかり見ていただいたこと。●預かっていただけだけでなく、勉強やイベント盛りだくさんで充実した夏休みがくれた。●家だったら一人でエナジーやテレビなどでダラダラとした生活になるところ、充実した夏休みになった。●本人が楽しく生き生きと生活して成長がみられた。●他校の友達にも積極的に話しかけて友達を作ることができて、内面的にも成長できてうれしく思っている。●地元の学童とは異なり、様々なイベント等があり、子供が喜んで参加していたこと。●人間関係の勉強をしたか。色々なところから集まるため、本人にとっては刺激があったかもしれない。●さすが学園!と思うサマースクールでした。内容、スタッフ、先生も素晴らしいです。●過去問講座がともありがたかった。●新たな友人ができ、縁があれば来年同級生となるかもしれない心強さを子供が得られたこと。●お金の管理や弁当作りなど、自分で、やってみたかったことをさせる良い機会になりました。●夏休み、仕事と宿題と昼ご飯のストレスが減りました。●キャンプでは、初めて親でないところの寝泊まりができ、また山に行きたいと言っています。●実行委員や司会をさせていただき、一生懸命やっている姿には正直驚きました。サマースクールの雰囲気や先生、友達との出会いの中で成長させていたのだかと思えます。

イベントスケジュール (都合により、予告なしに変更する場合があります。ご了承ください。)

月	日/曜日	午前 (過去問講座 他予定)	午後 (イベント予定)
7月	20/水	8:30~ 「学サマ開校セレモニー」 9:30~ 学習	14:00~ 校内見学
	21/木	ものづくりの楽しみ①(講師/橋本智明) ¥別料金材料代 約100円②~⑥同じ	14:00~16:00 夏宿対「作文が得意になる読書感想文講座①」
	22/金	ものづくりの楽しみ②(講師/橋本智明)	14:00~16:00 夏宿対「作文が得意になる読書感想文講座②」
	23/土		16:00~17:30 学サマコンサート① 「南米の楽器アルパの演奏と海外の楽しいお話」(出演/内海淳子) ※家族参加可
	24/日	休み/金光学園一日入学参加(オープン参加)	
	25/月		学サマ夏祭り実行委員会発足(以後随時開催)
	26/火	ものづくりの楽しみ③(講師/橋本智明)	14:00~15:00 実行委員会 15:30~17:30 「自由研究の芽と目!顕微鏡の世界が面白い」生物部協賛
	27/水	過去問講座(算数①)	14:00~16:00 「手作り和菓子で、茶の湯を体験」(出演/内海淳子) ※家族参加可 ¥別料金材料費600円
	28/木	9:30~15:30 倉敷科学センター研修(フナナタリウム鑑賞、全天周映画鑑賞、科学展示室体験) ※学校から貸し切りバスで往復します。(バス代無料)¥別料金施設入場料600円+昼食代 ※不参加の方は、学校で別メニューで過ごします。	
	29/金	過去問講座(国語①)	14:00~17:00 夏宿対「きつと絵が好きになる絵画・ポスター教室①」
30/土	過去問講座(社会①) シヨーン先生と英語で遊ぼう①	14:00~15:30 学サマコンサート② 「吉備楽」と「吉備舞」日本の優雅な音楽を楽しむ会」(出演/金光教典楽会有志) ※家族、友人参加可	
31/日	休み		
8月	1/月	過去問講座(理科①) 9:00~12:00 あつまれ!金光学園へ(陸上競技部)	14:00~17:00 学サマ夏祭り準備 14:00~ 「タンポールで自分のお城を作ろう!」(以後随時開催)
	2/火	過去問講座(算数②) 9:00~12:00 あつまれ!金光学園へ(中学野球部)	14:00~17:00 学サマ夏祭り準備
	3/水	過去問講座(国語②)、シヨーン先生と英語で遊ぼう② 9:00~12:00 あつまれ!金光学園へ(中学女子バスケ部)	14:00~17:00 学サマ夏祭り準備 16:00~17:30 「皆さんにぜひ見てほしいスタッフ厳選映画鑑賞①」
	4/木	過去問講座(理科②) 9:00~12:00 あつまれ!金光学園へ(ダンス部)	14:00~17:00 学サマ夏祭り準備 14:00~16:00 「パソコンで遊ぼう」
	5/金	過去問講座(算数③) 9:00~12:00 あつまれ!金光学園へ(音楽部吹奏楽団)	14:00~17:00 学サマ夏祭り準備
	6/土	過去問講座(国語③)	14:00~ 学サマ夏祭りの準備 16:00~19:00 「学サマPresentsの夏祭り」 「ゲームコーナー」「ステージ(箏、コーラス、吹奏楽、有志出し物、中村尚美トリオジャズ演奏)他」 ※家族、友人参加可 19:30~21:00 星座観察(オープン参加 天文部共催)
	7/日	休み	
	8/月	過去問講座(社会②)	学サマキャンプ実行委員会発足(以後随時開催)
	9/火	過去問講座(算数④)、シヨーン先生と英語で遊ぼう③	14:00~17:00 夏宿対「発明工夫わくわく工作①」
	10/水	過去問講座(国語④)	14:00~17:00 「世界の仲間と遊ぼう!」 (岡大留学生、学園留学生、学園国際交流クラブ生徒と交流)
	11/木	休み	
	12/金	過去問講座(社会③)	14:00~15:30 学サマコンサート③ 「多分見たことがない?」リコーダーアンサンブル体験」 (出演/山陽リコーダーアンサンブル) ※家族参加可
	13/土	休み	
	14/日	休み	
	15/月	休み	
	16/火	過去問講座(算数⑤)	14:00~17:00 「君の将来の夢は?~学園卒業生と夢を語ろう!~」 (金光学園卒業生との交流会)
	17/水	過去問講座(国語⑤)	14:00~17:00 夏宿対「きつと絵が好きになる絵画・ポスター教室②」
	18/木	過去問講座(理科③)、シヨーン先生と英語で遊ぼう④	14:00~16:30 「皆さんにぜひ見てほしいスタッフ厳選映画鑑賞②」
19/金	19日 10:00~20日 14:00 キャンプ ¥別料金食費、施設使用料他2,500円 場所:藤波キャンプ場(宿泊)		
20/土	※詳細は8月になってお知らせします。 ※キャンプ不参加の方は、学校で別メニューで過ごします。		
21/日	休み		
22/月	ものづくりの楽しみ④(講師/橋本智明)	14:00~17:00 夏宿対「発明工夫わくわく工作②」	
23/火	ものづくりの楽しみ⑤(講師/橋本智明)	14:00~16:30 「皆さんにぜひ見てほしいスタッフ厳選映画鑑賞③」	
24/水	ものづくりの楽しみ⑥(講師/橋本智明)	15:00~ 「学サマ修了証授与式」「お別れ会」 16:30~ 教室片付け掃除(全員で)	

中2 広島平和研修



平和学習を終えて

1組 川原 未空

私は、平和資料館を見たり、金光教平和集会に参加したりして、たくさんの方と学べました。

私は戦争や原子爆弾のことを調べたりしていながら、心の中では自分には関係なく、どうでもいいことだと思ってしまうていました。でも、今回平和資料館を見学して、今のロシアなどの戦争の事からも、戦争は自分に関係の無いことではない、日本では起きていないけど、身近なところで起きていることなのだと思えてきました。

平和資料館ではいろいろなものを見ました。そこには、ボロボロになった服、原爆による火災での火傷の写真などがありました。私はそれを見るのがとても怖くて、目を塞ぎたいくらいでした。でも、今見ておかなければいつ見るんだという



気持ちが悪く通り、たくさんの方を見ました。それを見ると、戦争の残酷さ、戦争の恐ろしさが自分が思っていた何十倍、何百倍でした。だから、このことをいろいろな人に知って欲しい、たくさんの方にこの資料館に足を運んで欲しいと思いました。

また、金光教平和集会では、被爆者の方のお話が映像からですが、聞ける機会がありました。私はそのお話を聞いて、ホントに戦争があつて原子爆弾は落とされたんだと思いました。このように思うのは、自分が戦争のことなどについていい加減に理解していたからだと思、もう1回戦争について調べ直したいと思っ



たので、家に帰ったあとに調べ直しました。私はこの平和学習でたくさんの方と学べたし、考え方が変わりました。このような機会がなかったら気づけなかったこともたくさんあると思います。だから、これからもこのような機会があったら1回1回を大切にしていこうと思います。



平和学習で学んだこと

2組 岡崎 可穂

私は今回の平和学習でたくさんの方と学ぶことができました。広島市の原爆や戦争のことを総合学習などの時間も使って調べてきたけれど、やっぱり本当に行つてみたらもっと戦争の悲惨さがわかりました。戦争で亡くなった方も原爆で亡くなった方も本当に可哀想でした。私は最初原爆や戦争で亡くなった方のことを調べるのは胸が本当に痛いし、あまり調べる気になりませんでした。でも今回わかったのは、改めて戦争はしてはいけないという事です。本当に原爆を体験している人は原爆を体験していない私達には理解しきれない辛さがあると思うし、家族や友達を失ってしまったりしてとても辛かったと思うけど、その当時の事を話してくださって胸が痛くなりました。

資料館などで昔の服や小物などを見たときも原爆でぼろぼろになって一部が溶けてしまっているものを見て本当に原爆がなかったら当時の人もこんなにも辛い思いをせずに楽しく暮らしていたのかなと思います。本当に戦争は残酷でこんなにもたくさんの方がつらい思いを

しなければならぬのだと思いました。そして、もう二度と戦争を絶対にはいけないと思いました。

正直、今まで戦争について、いけないことだということぐらいにしか考えていませんでした。でも、今回の平和学習で戦争がいけないということを、戦争を体験した方のように受け継いで伝えなければ意味がないと思いました。今回の平和学習で本当にたくさんの方と学べて良かったです。



平和を叶える

3組 岡野 寿美

私は今回の平和研修で感じたことがあります。それは平和についてです。

今回の研修先、広島で私は戦争や平和にまつわるさまざまなものを鑑賞しました。それは写真や文章で見ると追体験し、追力があがり、とても怖いものでした。私は



広島で昔起きた原爆や戦争のことについてあまり知らなかったのが今回初めて深く知りました。写真や像を見て昔の人や、原爆を体験した人にとってこの出来事は心に残ってしまうものなのだと思います。実際に訪れた広島は原爆で焼け野原となった面影などにもありませんでした。芝生があり、沢山の人が訪れ、楽しそうに話をしていました。でも、この今の広島があるのは昔の人々の努力だと思います。私はこの体験をずっと忘れないように生きていこうと思います。

その日はAIさんが原爆ドームの前で歌を歌ったそうです。音楽の日というテレビ番組で平和を訴えるために歌ったそうです。この都市、広島は日本や世界に平和を訴える場所なのだと思います。私個人の力では何もできないと思いましたが、ひとりひとりが協力することによって大きな力になる事がわかりました。みんなが平和を願うことで少しずつ戦争がなくなっているのではないかと感じます。でも、世界ではまだまだたくさん戦争が起きています。たくさんの方が願う平和がこの世界に訪れるといいなと思います。平和は願うものではなく、



叶えていくものだとは思いますが。ひとりひとりの行動で世界が平和になって欲しいです。

平和を守る

4組 瀧本 佳世

僕はこの平和研修で、命は限りなく尊いということと、平和は私達がなんとか守って行くべき大切なことだということをはっきりとわかりました。

まず、僕は資料館を訪れたことで、戦

争に対する嫌悪感がより増しました。放射能によって体が悲惨なことになっている写真や、僕と同じくらいの子供の遺品を見ると、怒りと悲しみがこみ上げて来ました。ただ普通に暮らしていただけに、何もしていないのに戦争の被害を受けるのはその人達で、全く僕には理解し難いものが僕の目には写っていました。原爆で約25万もの人が命を落とし、その

被爆者たちの数は年々増加しています。僕達の今ある暮らしがたった一瞬の出来事で25万もなくなるなんて想像できません。21世紀からは少しずつ完全平和に近づいている中、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻や、日本が核兵器廃止条約に不参加なのは由々しきことだと僕は思うし、このままではダメだとも思いました。今、平和について語る人がたくさんい

ていいことだと思うけど、その人たちは永遠に語ってくれるわけではありません。これからの社会を生きていく私達が平和について興味関心をもつことはとても重要で、今回の研修はとてもいい機会になったと思います。

これからの社会では、自分のことだけでなく、社会全体に目を向けることが平和を守っていくことにつながると思っています。

中2 広島平和研修 短歌コンクール優秀作品

第一席 指し示す消えた約束動かない

時計一つが君の証明 坪井杏璃

第二席 見わたせば涙を流し泣きさげぶ

この世と思えぬ赤黒い空 坪井里都

第三席 血みどろの地獄を知らぬ私達

次の世には何を受け継ぐ 出原光輝





を通して、様々なことを経験することができました。最初は、英語づくしの研修は嫌だと思っていたし、あまり外国の方と話した経験がないので不安だったこともあり、吉備オータムアドベンチャーにあまり積極的に行きたいとは思っていませんでした。でも、実際に行ってみると、外国の方と交流することはすごく楽しい

と知ることができたし、オーストラリア研修のことを前向きに捉えることができたようになりました。私が吉備オータムアドベンチャーの中で一番思い出に残ったことは、夜の集いです。夜の集いでは、今の班のメンバーと仲良くなることができましたし、たくさん岡山大学の外国人留学生と会話することができました。やはり、外国の方とは、自分の伝えたいことが通じないこともたくさんあったけれど、身振り手振りで伝えると、コミュニケーションをとることができたので嬉しかったです。自分が話したことに興味を持ってくれたのも、嬉しかったです。同じ班のメンバーの知らないこともたくさん知ることができたので、楽しかったです。

ESのアクティビティでは、あまり喋ったことのない子と同じグループになったので、いろいろな子と仲良くなることでよかったです。屋外オリエンテーリングでは迷子になったり、どこかの道かわからなくなったりしたこともあったけれど、協力してゴールすることができました。また、カルガモやヤモリなどいろいろな動物を見ることができたし、写真



が映えるような自然の中で、のびのびと過ごすことはとても気持ち良かったです。吉備オータムアドベンチャーに参加して、身振り手振りを使ってどうにか伝えたいと努力すると、コミュニケーションをとることができたので、外国の方と話すことに自信がきました。まだまだオー



本当の自分を出せた2日間

1組 中村 菜々

私は、この2日間で自分を出せたのではないかと思います。そして、思い出づくりもたくさんできたと思います。その理由は、2つあります。

1つ目は、実行委員だったということ。実際に実行委員として活動する前、私は、本当にクラスの中心になって活動できるのかと正直心配でした。なぜなら、実行委員はクラスに少人数しかいないから、人任せではいけないからです。実際に動き始めると案外そんなに大変ではなく、でもクラスで案を出すなど、少し大変な部分もありました。それでもなんとか実行委員として、そして夜の集いの司会進行として活躍することができました。夜の集いの進行では、全て英語であり、ただ原稿を読むだけではなく、外国人留学生を含む全員にも内容が伝わるように、少しゆっくり読んだり、単語のスペルを正確に読んだりするなど工夫して読みました。

2つ目は、24時間友達といたことです。中学校に入学してから宿泊研修に行ったのは初めてのことであったので、すごく楽

しく感じることはできました。普通に学校で食事をする時は、全員が前を向いて食べるけど、レストランで向かい合って、仲良しの子と隣で食べることができて嬉しかったです。また、クラスを超えて他クラスの子と散策に行った時は、グループの中に話したことがない子もいたけれど、そういうのも関係なくグループの皆と話すことや、一緒にミッションをすることができて良かったと思います。また、この機会をきっかけに仲良くなった子も多数できたので、良い経験になったのではないかと改めて感じました。同じグループになったある子に「お互い頑張ろうね」と言われました。その時、この子は積極的だなと思いい、感心しました。私は、人見知りか少しあるので、その声をかけてくれた子のように、私も積極的にならなといいけないなと思いました。今度の宿泊研修では、人見知りをなくし、自分からいろんな子に声をかけて楽しくしていきたいなと思います。

思い出に残ったK A A

2組 石井 遥菜

私は、この吉備オータムアドベンチャー

ストラリア研修に対して、不安はあるけれど、来年のオーストラリア研修がとても楽しみにまりました。

貴重な2日間

3組 藤井 裕生

10月16、17日にKAAがありました。最初は外国の人達とうまく英語で会話することができたか不安でしたが、実際に会話してみると完璧な英語でなくても聞き取ってくれてうまく会話することができましたし、楽しかったです。

僕がKAAの2日間の活動の中で特に心に残った体験は「夜の集い」です。この活動の前も、外国人留学生の人たちと上手に話せるかなと不安でした。でも、班のみんなや自分のスピーチなどにたくさん質問してきてくださって、会話が弾みました。また、留学生の人たちも自分たちの話題などもしてくださってとてもおもしろかったです。15分間の会話を5回して、外国人留学生の人達と仲良くなれた気がしました。オーストラリアに行ったときもホームステイの人たちと仲良くできると良いなと思いました。

1日目にしたベルリッツの活動では、

らバックに荷物を詰めて、明日を楽しみにしながらベッドで眠りました。朝を迎えると丁度良い天気でウキウキしながら電車に乗り学校に向かいました。

バスに乗り吉備青少年自然の家に向かった時は友達と今後の予定やどんな授業になるのか想像しながら会話を楽しみました。目的地に着いた時、「バスの中とは全然空気が違うな。」と、山の空気を一気に吸い込みました。

午前のベルリッツの授業で印象に残っているものは、ESでやっているように英語クイズをしたことです。その中で一生懸命覚えた天体望遠鏡の英単語が出てきた時、それを口に出して答えられたときは嬉しくなりました。その次は体を動かすということで、施設のプレイホールでベルリッツ

の講師の方々と運動をしました。ドッジボールをやったのですが、ただドッジボールをするというわけ



たくさん外国人の人達とゲームやインタビュールなどを通してたくさん英会話をしました。オーストラリアに関するクイズやゲームなどを、チームのみんなと協力しながらすることもできました。一番難しかったのは、前置詞などを使ってカードの位置を説明する問題です。カードの位置をどのような前置詞を使って表現すればよいのか悩みましたが、頑張った結果2位になることができました。その時はとてもうれしかったです。

2日目のウオーラリーは雨が降っていたときもあつたので、もしかしたら外での活動は難しいかなと思いましたが、できて良かったです。みんなと協力しながら地図を見て、どこに答えがあるのかを考えて探すことができました。少し違った部分もありましたが、全問答えられたので良かったです。自分たちが1日目に移動していた場所よりもっと広くて知らない場所を歩き回って、探検しているようで楽しかったです。また、山の中の景色も見られて、自然豊かだと思いました。

KAA期間中に、たくさんの外国人の人とたくさん話ができました。このよう

はなくAからZのシールを胸元につけ、当てられた人のシールを使ってお題の英単語を最初に作ったチームが勝ちというルールでやりました。全て個人で成功できるものではなく、ルール上で頭を使いながら協力したプレイが必要なものばかりでした。夕食は施設のレストランで食べました。ご飯が美味しく、みんなで間隔を取り、テーブルを囲んで食べました。夜の集いでは、一番気の乗らなかつた英語での自己紹介がありました。数人のグループで、一人の留学生を相手にコミュニケーションをとるのは正直言って不安に思っていました。ですが留学生の方から気軽に話しかけてくれたので、思った以上に肩の力が抜けました。気づいたことは、英語を完璧に使わずとも、ジェスチャーや断片的な情報でも相手は理解してくれるということです。こちらから一生懸命伝えようと思えば相手は真剣に耳を傾けてくれました。

今回の学習で、オーストラリア研修への不安が軽くなりました。いつでもどこでも、相手とコミュニケーションを交わす秘訣はこちらからの情熱が大事なんだと思いました。



な経験はめつたに無いことなのでこの経験を大切にしていきたいです。また、来年のオーストラリアに行くときにも生かしていきたいと思っています。

楽しかったKAA

4組 小寺 功祐

2年生になってからKAAまであつたという間に過ぎていきました。前日は慌ただしくバタバタしていました。焦りなが



中学 体育会

9月21日

1年2組 三宅 瑠

9月25日秋晴れの暑い1日が始まった。中学校に入学して初めての体育会だ。

僕は体育会が小学校の運動会とどう違うのか分からなかったし、小学校までの運動会は苦手だったので不安でしかなかった。そんな気持ちのまま応援合戦の練習が始まった。

まず僕が感じたのは、先生が何をするかを決める小学校の出し物と違って生徒で作っていき良さがあるということだ。3年生が中心に構成を考えてくれて、1〜3年生皆で放課後に残って毎日練習を頑張った。毎日となると大変だったが、皆でつくりあげていくという気持ちがあったので、友達と一緒に練習したり、休憩で話をしたり、先輩に教えてもらったり、とにかく皆で過ごす時間が楽しくて全く苦にならなかった。

そしてついに本番を迎えた。前半は様々な競技があったが2組は上位をキープし、とても良い状況で進んでいた。

ついに応援合戦。昼から陽差しも強くなってとても暑かったけど、練習の成果を出せるよう手を大きく振って頑張った。

踊った。弟が一生懸命手を振って見てくれた。嬉しかった。踊り終えた時には達成感に満ちあふれていた。その後の競技も2組は絶好調で見事優勝することができた。



そんな体育会で私はたくさんのお話を学びました。

1つ目は、先輩が優しくしてくれたことです。先輩は、ダンスや歌、隊形などをゆつくり分かりやすく教えて下さり、間違っても怒らずに優しく指摘してくださいました。先輩にとつては、こんなこともできないのかと思うかもしれないのに、家族のように接してくださいました。私たちも、来年はこのような先輩になりたいと思います。

2つ目は、友情が生まれたことです。3組は中学3年生までのチームになってとても仲良くなりました。最初は、知らない先輩ばかりだったけど、みんな話しかけてくれて協力してダンスをやることができました。このことから、友情はとても大切だということに気が



づき、人を成長させるものだと思います。

3つ目は、男女混合の綱引きで協力できたことです。クラスでもあまりしゃべらない男子との協力でもうまくいくか分からないけど、男子も女子も声を合わせて綱を引っぱることができたので感動でいっぱいになりました。結果は1勝1敗でした。負けても勝っても協力して楽しめたことに意味があると思うので、良かったと思います。心強い男子と女子で全力を出せたので、最高の1日となりました。

私は、体育会を通して協力することの大切さや、みんなで作り上げるものすごく素敵なものになるということを学びました。体育会では、クラスのみんなと団結し全員で戦い、楽しむことができたので、この経験を生かしてこれからもクラスのみんなと団結していきたいと思えます。

協力することの大切さ

2年3組 中濱 彩乃

私は体育会を通して協力することの大切さを改めて感じるようになりました。私が今年の体育会で最も心に残っている

初めて体育会を経験して、仲間と団結することや、頑張って取り組めたことや熱くなることができた。自分の日々の成長に気づく良い経験となった。

体育会を通して学んだこと

1年3組 木之瀬由奈

中学生になって初めての体育会がありました。私は中学生ではどんな体育会をするのだろうと楽しみでいっぱいでした。

することは、なんと言っても応援合戦で1位になれたことです。放課後などの時間を使ってみんなでたくさん練習してきたので、すごく嬉しかったです。練習を始めた頃は自分が踊れるのか、体育会までに完成するのか、不安なことが多かったけれど、本番ではうまくできて本当に良かったです。たくさん練習してきたからこそ達成感もすごくありました。また、チアリーダーの先輩が泣いている姿を見て、優勝できて本当に良かったなと心から思いました。私は母が応援合戦を見に来てくれていたので、家に帰ると「3組めっちゃ良かったよ。」と言ってくれて、頑張った良かったなと思いました。そして私達が優勝できたのは、中3の先輩方がいたからだと思うので、来年は自分たちが後輩を引っ張っていけるような存在になりたいと思いました。沢山の人をまとめたい、いろんなことを教えたりすることはそう簡単ではないと思うけれど、来年は今年の経験を活かして精一杯頑張りたいです。私は体育会を通して、助け合ったり、協力したりすることの大切さを改めて感じることができました。また最初から最後までとても楽しくて本当に良い思い出

ができました。来年在が中学校で最後の体育会だと思ふと少し寂しい気持ちもあるけれど、今回学んだことを活かして来年も一生思い出に残るような最高の体育会にしたいです。

団結力

2年2組 佐藤 地央

私は、今回の体育会で学んだことがいくつかある。

まず、「団結すること」の大切さを学んだ。はじめのうちの練習では真面目に練習している人のほうが少なく思えたが、日を重ねてみんなで練習していくうちに、それぞれが一生懸命練習するようになったと思う。応援の部では優勝できなかったが、みんなで団結してダンスを教え合ったりしたのは初めてで、とても楽しかった。

次に、「沢山の仲間のために頑張ること」を学んだ。私がしているスポーツはほとんどが個人だから「仲間のため」より「自分のため」に頑張ることが多かった。しかし、体育会では学年ごとや兄弟学級で優勝が決まるため、「みんなのために頑張ろう」と思った。あまり感じたことがない気持ちで、そう思っただけで臨む競技は今



まで感じたことがないほどにものすごく緊張した。特にリレーはプログラムの最後の種目だったことやすべてのクラスが僅差だったこともあって一番緊張したのが、召集場所に行く前にクラスメイトが声をかけてくれたおかげで緊張がほぐれた。私達のチームは優勝でき、学年の部も兄弟学級の部も優勝できて嬉しかった。

最後に「応援し合い、喜び合うこと」の楽しさを学んだ。リレーのときもそうだったが、同じ組から出場する仲間のことを全力で応援し、勝つとみんなで喜ぶのはとても楽しかった。

今回の体育会は準備期間も短く、バタバタしたこともあったが、この兄弟学級のメンバーで体育会ができたことをとても嬉しく思う。来年は私達が下級生を引



援するのではなく、クラス関係なく応援している沢山の人の姿にととても感動しました。もちろん、自分たちのクラスに勝ってほしいという気持ちはどのクラスの人にも思っていることでありながら、頑

張っている出場者に大きな声援を送っていることにととても感動しました。私が出る競技の前にも沢山の人が応援してくれてとても頑張る勇気をもらいました。3つ目は、感謝の気持ちを忘れてはいけないということです。まず、私達が応援合戦として体育祭ができたのは、事務局委員の皆さんと体育会実行委員の皆さん、先生方の多くの人のおかげだと思います。本当に貴重な体験をして良い思い出を仲間と作ることができて本当に良かったです。このように、たくさんの経験をすることができても充実した体育祭でした。

大きな壁にぶつかるからこそ、「成功」が待っているなど改めて思うことができている。

合わせた力は無限大

3年4組 久一 優生

金光学園における2大行事といえるであろう「ほつま祭」と「体育会」。僕らにとつてどちらも最後のものだった。僕はこれらの行事から「絆」を学んだと感じる。

ほつま祭が終わった後、落ち着く間もなく体育会の準備が始まった。9日間ととても少ない準備期間の中で「どれだけ良いものを作れるか」と必死だった。考えていた構成やダンスの曲・振り付けを巡って様々な議論が行われ、改善案を組み込めば組み込むほど良いものに近づいていき、それがまるで4組の一人一人の「力」が山のように積み重なっているように感じて心が踊り続けていた。僕らの演技は最後まで試行錯誤して、変更点を出していった。1・2年生にはいきなりの変更にも申し訳無さを感じていたのだが、それでもついてきてくれた後輩達には感謝しかない。毎日放課後に友達と共に練習し、動きが揃った時にとっても気持ちよく、

張っていく番だから、それに向けてより団結できる、良い学年にしていきたい。

新たな成功

3年1組 矢野 心陽

私は、体育祭でたくさんの経験をしました。1つ目は、クラスのみんなで協力することの大変さです。私は、普段簡単に「クラスのみんなで協力をする」と言うことがありません。しかし、1人1人持っている意見は違い、たくさん悩みました。もちろん、私だけではありません。たくさんの仲間が悩み難いことばかりだったと思います。このようなことがありません。でも、幹部の人を中心にそれぞれの学年をまとめてくれたことで、幹部に付いていく私達に大きな影響を与えてくれたと思っています。心配なことや不安がとても大きい応援合戦でしたが、本番は一杯楽しむことができたので、とても良い思い出になりました。頼りない私達についてきてくれた1年生・2年生に感謝の気持ちでいっぱいです。そして、新たな応援合戦を作ってもらいたいと思います。2つ目は、1人1人の応援している姿です。自分たちのクラスの人だけを応援

練習に付き合ってくれた友達にも感謝している。

幹部の6人で、「どうやったら良くなると思う?」といつも聞き合い、一つひとつとめる。このまとめ作業が最も大変であった。分かりやすく単純で、それでいて見栄えがよいものを作り上げる。これが想像以上に難しかったのだ。しかし、この大変さの中にやりがいや楽しさを感じた。自分が1年生の時に、引く張ってくれた3年生もこんな気持ちだったのかと少し自分が成長した気がした。

本番では仲間たちと「よく頑張ったな」と称え合った。自分の中にずっと残り続ける思い出だろう。先生が「あなた達は学園の応援合戦の新しい形を作った学年です。」と言ってくれた時、頑張ってきたと肩の荷が下りた。

僕らがここまで頑張れたのは、立派な指導者、団長 巻尾心清君、がいたからだ。本当にありがとう。



ほつま祭

クラスで成長したほつま祭

中1 2組 小山 寧々

中学生になって初めてのほつま祭。私はとても楽しみにしていました。

展示の準備を始めてからほつま祭最終日まで私は、たくさんのことを学びました。

1つ目は、先生方、先輩方の一生懸命さに感動しました。新型コロナウイルス感染症で2年ぶりのほつま祭だったので、先生方や先輩方も張り切っているのが伝わってきました。

私はルンルン気分だったのに対し、先生方や先輩方は、このほつま祭をよ



りよいほつま祭にしようという熱意を感じとても感動しました。先輩方は何も分らない私たち1年生に色々教えてくれました。パネルなどを設置することができたのは、みんなの頑張り、先輩の頑張りがあったからこそだと思います。

2つ目は、協力することの大切さです。1年2組の1学期は、クラスメイトがぶつかり合うことが多く見られました。ですがこの31人が1つの物を一緒に協力して展示することができました。これは、大きな成長だと私は思います。この成長をきっかけに、これからはもっと成長することができると思いました。

1学期は意見のぶつかり合いが多かったですが、ほつま祭の準備では認め合い、みんなで一致団結してよりよい展示を開くことができました。そのことがとてもうれしかったです。

このほつま祭での経験を生かし、クラスで一致団結し、これからの行事に取り組みたいと思います。

初のほつま祭、初の経験

中2 4組 木村 絢菜

今年のほつま祭で、私自身に大きく影

くの経験を積むことができてとても良かったです。来年は、今年の経験を活かし、改善できるところや出来が悪かったところをリベンジ出来るように、残り少ない2年4組の活動、これからお世話になる茶道部の活動、どちらも学校生活を楽しみながら頑張っていきたいです。

努力の結晶

中3 2組 高木 柚奈

9月10、11日にほつま祭が行われた。

2年ぶりの開催ということもあって、とても楽しみにしていた。私達のクラスは、劇をすることになった。しかし、準備は、思い通りのように、スムーズには進まなかった。私の担当は大道具。主に背景を担当した。36枚もの模造紙を繋げ、教室の後ろの絵を書いていった。チョークで下書きをして、絵の具で塗り始めた。しかし、なかなか進まず、塗る作業だけで約2週間かかった。模造紙が破れてはならないし、なんといっても、限られた時間で、膨大な量の絵の具とともに、大きな模造紙に絵の具を塗らなければならぬ。更に、塗るためには、スペースが必要になる。最新の注意をはらって、塗っ

響を与えてくれた経験は主に2つあります。

1つ目は、中学2年4組の演劇「喫茶店DE強盗」をクラスメイトと作り上げたことです。自分達の得意な分野で効率的に作業を進められるようにお互いのことを考えたり、私達が作った背景の前で演じてくれるキャストの人達のことを考えていくのはとても楽しかったです。また、このことを通して、「協力する」ということの真の意味がよく分かった思い出になりました。

2つ目は茶道部のお茶会です。去年はコロナウイルス感染症防止のために、茶道部の文化祭の活動は何もせず終わってしまいました。しかし、今年は感染対策を取りながら金光学園生や、ほつま祭に来てくださった保護者の方々、先生方



ていった。完成したときには、大道具の担当者全員が笑顔になった。塗り終わったあとは、久しぶりにキャストと合流し、劇の流れ、セリフを必死に頭に入れた。

キャストは、ほとんどセリフを覚え、前見たときとは違い、明らかに自信がついているように見えた。そして、劇があと数日と迫ったある日、急遽、台本を大きく削ることになった。それでもキャストは、すぐに覚え、流れについていっていた。とても誇らしかった。そして迎えた本番の日。みんなが緊張していたし、楽しみにしていた。舞台上がいたら、すぐに背景を貼って、みんなで円陣を組んだ。そして、ついに劇が始まった。みんなの努力が結ばれる時。劇で演技をしている1人1人が、輝いて見えた。最高の劇だった。そして、クラス全員の



を対象にお茶会を開くことが出来ました。私は開始してすぐの枠でお軸とお花の説明をしました。まず、お客さんの手元に十六夜（いざよい）というお菓子とお抹茶が行き届いていることを確認しました。その次にお客様の前に出て説明をしました。緊張して、カタコトになりながらだっただけ、大勢の前に出て、自分の知っていることや今までの部活動の成果を見てもらうことは滅多にないことだったので、とても良い経験になりました。今回のお茶会を通して、多くの人に『お抹茶』や『お菓子』、『お茶会』に興味を持ってもらえる機会になっていたらいいなと思います。

1年生のときは惜しくもほつま祭が実施できず、小学生のときにも私はほつま祭に参加したことがなかったので、どんなのかさっぱり分からなかったけれど、今年初めて参加して、多

団結力を感じた。劇が終わると、みんなの表情がとて明らくなった。私もうれしくなった。それと同時に、もうみんなと劇ができなくなる寂しさを感じた。クラスの人全員が今日の劇が成功するようにと皆さんの準備をしている時間がとても楽しかった。

このほつま祭を通して、多くのことを学んだ。たまには、ぶつかるときもあつたけど、みんなが協力して、大成功した劇は、最高に楽しかった。あと数ヶ月の中学校生活。1つ1つのことを大切にしていきたい。

これから、2週間は、体育会に向かって行く日々が始まる。最後に楽しかったと言えるような体育会にしたい。そして携わってくれた人全員に感謝していきたい。



2年ぶりのほつま祭

高1 3組 島原 利駆

新型コロナウイルスの影響により様々な行事が中止となっていく中で金光学園の最大行事とも言える「ほつま祭」が無事に開催されました。去年は新型コロナウイルス第五波の真只中で今年は開催できるのだろうかかと懸念されていた中止となりました。しかし、今年の(2年ぶり)の「ほつま祭」は2年前の開催できなかったときの気持ちを吹き飛ばしてくれました。もちろん、様々な制限はありましたが、それでも思いつき楽しむことができました。展示ではたくさんのお話を学ぶことができました。模造紙に書かれた内容は中学1年生の教室から高校2年生の教室まで全て深くとも面白かったです。たくさんさんの模造紙を見ている中で学ぶことは楽しいということに改めて実感させられました。また、教室には飾り付けがあつたり体験コーナーがあつたりとお客さんを楽しませる工夫がされていきました。それらは、来るお客さんを魅了していました。演劇では達成感を味わうことができました。僕のクラスは演劇で練習時間がとても押している

このままでは劇は完成するのかと懸念されていました。しかし、クラスのみんなの協力によって、スムーズにそれぞれの役割に取り組みることができました。僕は、練習のとき、裏方で地味な仕事でしたが、少しでもクラスの役に立てられたらという気持ちで頑張りました。そして、演劇は無事成功しました。これは、クラスのみんなの気持ちが一つになったからだと思います。日曜日のそれぞれの部活からの出し物はどれも素晴らしいものばかりでした。特に軽音楽部のボーカルの2人の声の音色は素晴らしくその場にいた人たちを圧倒していました。KOPではほつま体育館が笑いに包まれていました。2年ぶりだということもあつてか2年前と比べてみんなの笑顔が輝いていました。今年の「ほつま祭」は制限もある中でし



たがとても楽しかったです。さすが「ほつま祭」だと思いました。来年はまだコロナウイルスが落ち着いてないかもしれないが無事開催されたら思いつき楽しみたいです。

ほつま祭

高2 3組 澤田 凌太郎

9月10日、11日の2日間ではつま祭があつた。

「ウィッスー!」僕の掛け声から始まった。ぼくたちのクラスの出し物、演劇の始まりだ。ぼくは、先生役として一番初めに登場したのだ。最初でこけるわけにはいかない、最初が肝心だ。少々プレッシャーを感じつつ、ぼくは叫んだ、「ウィッスー!」。

予想では、客席から誰も返答がないと思っていたので、すべってしまった時の対応策を考えていたが、「ウィッスー!」、優しい部活の仲間たち、観客のみんなが

反応してくれた。ありがたい! 最高の始まりとなった。

演目は、ちよつと前に流行った



「アナと雪の女王」だ。クラスの仲間と話し合いをしながら、どんな内容で進めていくか内容を決めていった。真面目にするのか、それとも笑いを優先にするのか。いろいろ検討し、笑いで進めていくことにした。お笑い、イメージはドリフのコントだ。

むかし、ドリフのコントは、とことん体をはったコントだったらしい。父が小学生の時は、ドリフ派とひょうきん族派とあり、どちらも体をはったお笑い番組で視聴率を競争していたらしい。女装をしたり、被り物をしてたりしてのコントはとても面白かったらしい。確かに、今でも特集が組まれるくらいだ。

ぼくたちも、おもいつきり体をはって、笑いをとれるように、ストーリーを考えよう。どうやったら、面白く仕上げられるか、色々考えた結果、坊主頭にドレス、ぱっちりメイクでアナ雪を演じる!とどこどころにツッコミをいれながら。

「バン! それ、ちがうだろ!」先生役のぼくは、メガホンで白雪姫の頭を叩き、ツッコミをした。ごめん、でもこれも、面白い劇にするためだからと心の中で謝りつつ、客席から「ドッ!」と歓声があがる

と、もつとツッコミまなければと、気持ちよくツッコむほくがそこにいた。みんな、すまない。

無事に、演劇が終わった。客席からの拍手は、とても気持ち良かった。思いつきり、ツッコミながら気持ちよく演劇できたのも、クラスの仲間と一致団結し、良いものを作ろうとみんな同じ気持ちで取り組めたからだと思う。本当に楽しい時間を過ごせた。みんな、ありがとう。



ある日のホームルーム



高校1年4組

「先生、ジョエルの歓迎会しよう!」。秋の深まったある日の、クラスメートからの突然の提案でした。

ジョエルは、スイスからやって来た留学生です。2学期から1年4組に仲間入



りして、約3か月が経ちました。ほつま祭や体育会といった行事、日々の学校生活のなかでクラスメートと打ち解け、今では係活動もこなすなど、すっかりクラスに馴染んでいます。彼の努力の成果もあり、日本語での日常会話や伝達事項でもほとんど困らないほどになりました。歓迎会には少し遅いのでしょうかという考えも過りましたが、仲間として迎えたいという生徒の温かな気持ちが嬉しく、ホームルーム委員を中心に数日前から企画を進めました。

5時間目終了のチャイムが鳴るやいなや、我先にとクラスメートたちが準備に取りかかります。全員が足早に向かった先は、ほつま体育館。さて、いよいよ歓迎会の始まりです。

盛り上がりつつ忘れる前にと最初に記念撮影を終え、2チームに分かれました。各チームから1人ずつが選ばれ、センター



サークルで向かい合います。ジャンプボールが最高到達点まで上がったのを確認し、大きく跳躍。これまで何度もクラスでバスケットボールをしているため、慣れたように試合が始まりました。バスケットボールの試合は、本来なら5人対5人で行われますが、せっかくクラスでするので

だからと、ほとんど全員がコートに入りました。そのため、少々窮屈な様子。しかし、そこは半年ともに過ごしたクラスメート。お互いの名前を呼び合いながら、細やかなパス回しで両チームとも次々と得点を重ねます。

ジョエルにパスが回ってきました。



「ジョエルー!」いけー!」と生徒たちの歓声が一段と大きくなります。運動が得意なジョエルは、鮮やかなドリブルを披露して見事シュートを決めました。「ナイスー!」と相手チームから起こった拍手に爽やかな笑顔で応えます。そこからは誰もが積極的ボールに触れる展開が続きました。華麗なレイアップシュートや神がかったパス

カット、ときには珍プレーも魅せながら、一進一退の攻防が繰り広げられ、気付けば6時間目終了のチャイムが鳴っていました。

前日までの打ち合わせでは、おにごっこやハンカチ落とし、ジェスチャーゲームといった日本の学生らしい遊びも用意していたのですが、バスケットボールが盛り上がり、出番なく歓迎会が終わりました。企画をしてくれた生徒が残念に思っているかと心配しましたが、「みんな楽しんでいたので」と笑顔で言ってくれ、ほっとすると同時に、優しさに感心しました。その日の学級日誌にも「6時間目楽しかった!!」の文字。ジョエルの歓迎会ではありましたが、ジョエルはもちろん、自分たちも楽しめる時間になったようです。

秋晴れの気持ちのよい午後。今日ばかりは11月の肌寒さも忘れ、心も体もほかほかと暖かい時間を過ごすことができました。

高2修学旅行 沖縄コース

1日目 平和学習と沖縄の自然を肌で学ぶ

田中 寿綺也

6月13日、私たち沖縄コース男子16名、女子11名の計27名は朝5時30分に学校、または6時40分に岡山空港に集合した。飛行機が飛び立つ瞬間は鮮明に覚えており、体にいつもより強い重力がかかってきたので、ワクワクした。初日はひめゆ



り平和祈念資料館の自由見学だった。沖縄戦で亡くなった方の命の尊さ、戦争の悲惨さを教えてくれる資料館だった。その後私たちは、平和祈念公園で献花と学校で折ってきた千羽鶴を記念碑の前に捧げ祈った。平和祈念公園をあとにした私たちが訪れたのは斎場御嶽だ。斎場御嶽は「せーふあうたき」といい、ユネスコの世界文化遺産に登録されている。斎場御嶽の自然は岡山のそれとはまるで違い、多様な植物が混在しており、見ているなにか不思議な気持ちになっていった。中にある大きな2枚の岩が互いを支え合っている「三庫理」は沖縄の自然を肌で感じる事ができた。疲れた私たちはその日よく眠れた。

2日目 首里城・国際通りを満喫し、石垣島へ

川上 翔

2日目は、6時30分に起床し、7時ごろにバイキング形式の朝食をとった。沖

スで国際通りに移動した。国際通りで約3時間の自主研修をした。国際通りにはたくさんのお土産屋やユーモアあふれるTシャツ屋、石けん屋、ステキハウスなど数えきれないくらいのお店がずらりと並んでいた。紅芋タルトやちんすこう、那覇に1軒しかないストリーパーバスのお店で服やズボンを買った。どのお店、店員さんも個性が強くておもしろかった。すべての行程を終え那覇を離れ石垣島へと向かった。1時間のフライトで石垣島に到着しバスでホテルへ移動した。ホテルにはきれいな海とプールが付いている。テンションが上がり、体の疲れも吹っ飛んでいた。

3日目 絶好のマリン体験日和

安井 大稀

修学旅行3日目。天気予報は雨。が、しかし予報は外れ、石垣の海は私たちが最高の天気で出迎えてくれた。朝から暑い。絶好のマリン体験日和だ。私が一番楽しみにしていたのはシュノーケリングだ。インストラクターの方が船で沖まで連れていってくれた。いざ海へ入った瞬間、足が地に着かない感覚がとても怖かった。

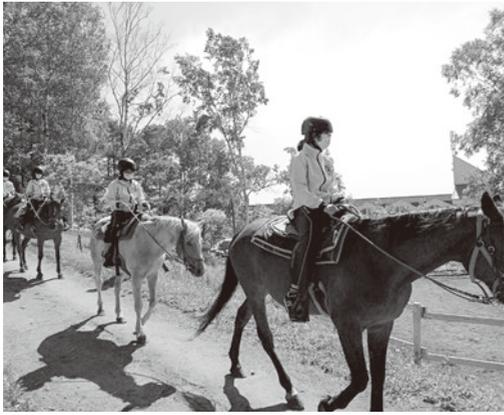


縄の食材を使った魚、肉料理を食べて朝から満喫した。

その後快晴の中首里城公園に行った。首里城の一部分は修理中だったが、琉球王国の雰囲気を楽しむことができた。また高台から見た街の眺めは海とマッチしていてとても美しかった。

首里城公園を1時間ほど回った後、バ





1日目 いよいよ旅立ち

大橋 優樹

目が覚めてベッドのそばの時計を見ると、5時48分32秒を示していた。急いで身支度をし、家を出た。いつもより少し冷たい空気を身にまとい学校についた。

高2修学旅行 北海道コース

そこには何人もの友達がそわそわしながら集合していた。

空港に着くと、キャリーケースを引きずるたくさんの方が聞こえてきた。手荷物の検査などが行われ、飛行機に搭乗した。それから数分が経ち、ゴトゴトという音とともに、離陸した。機内では、これから修学旅行が始まるという実感が湧いてきて胸が高鳴った。羽田空港で新千歳空港への飛行機に乗り換えた。一時間半の飛行を終え、私は北の大地へ足を踏み入れた。

ノーザンホースパークで自然に触れる

平田真菜斗

ノーザンホースパークは、周りが木で囲まれていて、とても居心地がいいところでした。心もリフレッシュすることができました。やはり北海道ということ、馬と触れ合うことのできる乗馬体験や大自然に触れることができる約千品種の花が咲くボタニカルガーデンがありまし



修学旅行最終日は朝食を食べたあと少し時間があつたので、ホテルの前の砂浜付近で写真撮影をした。我々はホテルを出発するとグラスボートに乗るため川平湾へ向かった。グラスボートとは、海底を見るために船の底にガラス張りになっている部分があり、そこから魚や珊瑚を観察することができる船である。石垣の海は透き通っておりよく観察できた。我々は幸運なことにウミガメを見ることができた。ウミガメが見れるとその日は運が

4日目 石垣島の自然とお別れ

榑田 謙心

何回か浮き輪につかまっつては離れを繰り返しているうちにだんだん慣れて、そのうち平気になってきた。そして、海の中を覗いて見た。透明度抜群の綺麗な海を見ることができた。青い魚(ドリー)や、カラフルなサンゴたち。今まで見たことのない水中の景色にとっても感動した。次にバナナボート、シーカヤック、スパーマール体験などイベント目じる押しだ。なかでもバナナボートは、スリルがありとても楽しかった。晴天の中、石垣の海の素晴らしさを27人全員で味わうことができて本当によかったと感じた。



いい運転手さんに教えてもらった。その後訪れた石垣やいま村ではリスザル園があり約70匹のリスザルとのふれあいを楽しんだ。小さな体がとても可愛く癒やされた。石垣島商店街ユーグレナモールに着く直前に我々はスコールにあった。今までに経験したことがないほどの雨の強さでワクワクした。商店街で昼を済ませると、すぐに空港へ向かった。沖繩に



別れを告げた我々は飛行機の中で夕飯を食べた。岡山空港に着くと寒かった。あれほど嫌だった沖繩の湿気が何故か恋しく感じた。



た。そして、北海道のソフトクリームはとても濃厚で甘くておいしかった。

2日目 ルスツ体験学習と

白い恋人パーク

岡本 愛花

北海道といえば、やはり大自然。ルスツ体験学習であるラフティングは、それ



をとても実感させるものでした。尻別川を7km、グループの人と協力して漕いでいきました。綺麗な川の流れ、時々見える羊蹄山の雄大さ、川の水しぶき…。美しい景色が視界に広がります。皆でパドルを上に向けて合わせる時は楽しい気持ちでいっぱいでした。

次に向かうのはとても有名な「白い恋人パーク」です。着くとすぐに美しいバラ園が私たちを迎えてくれます。ここでは白い恋人やバウムクーヘンの製造を上から見学できます。チョコレートの歴史を知れて、メルヘンチックな印象で私たちを楽しませてくれました。

大倉山ジャンプ台と夕食自主研修

中野 結

少し肌寒くなった夕方に大倉山ジャンプ台に到着した。このジャンプ台は1972年の札幌オリンピック冬季大会の舞台となった。初めて乗るリフトは怖かったが、登っていくとずっと奥まで広がる札幌の街を一望できた。初めて見る景色に圧倒された。

この日の夕食は自主研修だ。私たちは結び亭というお店でジンギスカンを食べ



た。班員全員がジンギスカンを食べるのは初めてだ。たれとハーブ塩で食べてみると、初体験の味と食感でとてもおいしかった。食後に運動がてら散歩をした。友達と過ごす時間は最高の思い出となった。

3日目 札幌・小樽自主研修

大村 朋也

まず私たちが向かったのは札幌PARC

COである。スマホの案内を頼りに進んでいくと大通公園を通った。高いビルが建ち並び、人々が行き交うこの街の中で花が咲き誇り、噴水を見上げることできる公園は寝起きの私にとってもよい休憩場所となった。しばらくして私た



ちは札幌PARCOに着いた。海鮮、果物、どれも魅力的なものばかりだった。そうこうしているうちに時間は過ぎていき、買い物もあつという間に終わってしまった。次に昼食をとろうと私たちはラーメン屋に行くことにした。しかし、本来行くはずであったラーメン屋が、ホームページの記載ミスで開店時間が全く違うではないか。私たちは驚きあきれつつも別のラーメン屋に行くことにした。そのラーメン屋の店員の話によると、学園生と面識があるらしく旅行先の昼食でよくお世話になっていたので。私たちはその店の一番人気を注文した。麺もスープも味わい深くとても満足感のあるラーメンだった。それと同時にどれだけ綿密な予定を組んでも、実際にはうまくいかないかもしれないというこを痛感することとなった。

最高の一日

藤井 敬久

朝一番に訪れたのは、北海道神宮。壮大かつ美しい北海道の総鎮守は、あの出雲大社を彷彿とさせた。僕たちはお賽銭を投げ、一日の旅の安全を祈願した。工



事の中の赤レンガ庁舎を横に見ながら次に着いたのはさっぽろテレビ塔。高さ90mにある展望台から360度札幌の街を見渡しながらゆったりと時間が流れる。3人で一緒に笑顔で撮った記念写真は、僕の宝物になった。

昼食を取り、次に向かったのは羊ヶ丘のクラーク像。「少年よ大志を抱け」の言葉を残し、日本を去ったクラーク博士の威厳を目の当たりにした。路面電車で揺られながら中心街に戻ると、一気に人の数が増えた。夕食に初めて食べた札幌ラーメンは、とにかく美味しく、また食べてみたいと思った。

ホテルに戻ると、友達の歩数計は2万歩以上を記録していた。よく歩き、よく笑っ

た、最高の日だった。

4日目 アイヌ民族について学ぶ 渡邊 一真

正直私はアイヌ民族について何も知りませんでした。ウポポイ(国立アイヌ民族博物館)に行くことでアイヌについて詳しく知ることができました。私は展示室を一通り見たとき頭がパンク寸前に



なりました。それくらいポリウムがあります。その中でも私が一番驚いたのは熊の剥製が展示されていることです。熊といっても少し小さめの小熊ですが、近くで見るととても迫力がありました。その熊には装飾が施されており、とても興味が湧きました。

違う文化を知り、岡山へ

井上 琉雅

ウポポイでは、私たちの知らないアイヌの人々の苦しい日々や、常識や文化など様々なことを知ることができ、とてもおもしろかったです。アイヌ独自の「物に精霊が宿る」という考え方をもち、最後は物を壊して精霊を天に帰すという風習はとても興味深かったです。同じ日本にも昔は私たちとは全く違う文化があったと思うととてもすごいなと思いました。後は岡山に帰るだけでしたが、4日間の疲れもあり、帰りは皆ぐったりしていました。神戸空港へ着陸する際に込み合っていて着陸できないという小さいトラブルもありましたが、そんなところもふくめて楽しかったです。

中学校の時、修学旅行に行けなかった



ので、高校では楽しめてよかったなと思いました。

生徒会活動

《中学生徒会》 体育会は曇天の中、9月25日に開催された。ほつま祭以後、2週間程度の取り組みの中、今年度は2年ぶりに応援合戦を開催した。3年を中心に兄弟学級が団結した素晴らしい応援合戦を展開した。

『リレークリーン作戦』も二学期よりおこなっている。「日頃お世話になっている町内やJR金光駅等に対し、お礼(感謝)の気持ちを清掃という形で表す」「登下校のマナーについて考える機会とし、学園の仲間が毎日清掃することによってゴミをしない、迷惑をかけないという意識を各々に育てる」が目的で、クラス、部、生徒会事務局が各単位でチームを作り、金光駅から学園までの主に通学路を中心に清掃活動している。どのチームも一生懸命取り組んでいる。

《高校生徒会》 体育会は9月14日(水)に開催された。天候に恵まれ、無事にすべ

てのプログラムを実施することができた。様々な競技で熱戦が繰り広げられ、黄ブロック(2年1・2・3組)が優勝、赤ブロック(3年1・4・5・7組)が第2位、橙ブロック(3年2・3・6組)が第3位となった。

《秋季球技大会》 予定されていた10月21日(金)に1年生・2年生で実施した。天候にも恵まれソフトボール、フットサル、ドッジボール、テニスボールの4種目が行われ、1年生は1組が優勝し、2年生は1組が優勝した。

《天文部》 11月8日、皆既月食の特別観測を行った。42年ぶりの惑星(天王星)食もあり、部員14名で観測を行った。天気も良く、皆既月食や天王星食の瞬間を写真に収めることができた。

《科学部》 ほつま祭で、サイエンスショーを披露したり、お客様に実験を体験してもらったりし、日頃の活動の成果を発揮することができた。現在は、小グループごとに、興味ある内容を楽しく調査・実験している。

《電気科学部》 8月14日 岡山情報ビジネス学院で行われたWROJapan 中国地区予選会で、高1栗元、川崎が、ロボット

名「Cest」で出場し、10チーム中の1位となり、全国大会への出場権を得ました。8月28日 WROJapanIn 浜松に前述の高1、2名が出場しました。なかなか難しく、健闘しました。

例年仁科ロボコンが開催されていますが、今年は、去年と同様、ビデオ審査となりました。中1と高2が出場しました。

《生物部》 8月1日(月)、8日(月)に環境学習出前講座を実施した。1日はネイチャーガイドの講師を迎え、彦照山の生き物の採集観察を行った。8日は環境学習センター「アスエコ」より講師を迎え、里見川の生き物の採集観察を行った。両日とも多くの部員が参加し、環境保全への関心と野外採集時における注意等の知識を得ることができた。

《書道部》 「第51回全国高校書道展」で、高2寺川なのは(準特選)、高2片山杏悠(佳作)、高1矢野心優(入選)、高1小寺穂果(入選)を受賞した。「第45回ふれあい書道展」で、(特選) 高1矢野心優、高1小寺穂果、中3今井真那花、中2石井遥菜、中2山田桃実、中2中村菜々、中2寺川理斗、中1長谷川向夏花(奨励賞) 高2寺川なのは、高2片山杏悠、中2小

寺功祐、中1狩長花佳がそれぞれ受賞した。「第90回全国書画展覧会」において、(金賞)中2石井遥菜、中2寺川理斗/(銀賞)中1長谷川向夏花、中1木之瀬由奈、中1狩長花佳が受賞した。11月の総文祭には高校生7名が半切1/2サイズに取り組み出品することができた。

《茶道部》 ほつま祭では限定100席でお茶席を設けた。生徒は緊張しながらも、お軸やお花、お菓子の説明をしたり、お運びをしたりと日ごろの練習の成果を発揮した。

《写真部》 ほつま祭のテーマを金光町の魅力再発見とし、8月に金光町の大谷地区を中心に撮影をしてまわった。9月のほつま祭では、膨大な写真の中から一部ではあるが、展示をすることができ、多くの人に見てもらったことが出来た。

《音楽部吹奏楽団》 7月24日(日)オーブンスクールにて開会行事で「オーメンズオブラブ」を演奏。部活動体験では「夏色」を演奏した。7月25日(月)アイビースクエアにてカモ井加工紙、岡山大学のゼミとのタイアップ企画m.tコンサートに参加し「オーメンズオブラブ」「初心LOVE」「YOASOBIメドレー」「夏色」を演奏した。8月6日(土)サマースクー

ルの夏祭りにて「オーメンズオブラブ」「初心LOVE」「きらり」「YOASOBIメドレー」を演奏、楽器紹介なども行った。8月27日(土)オーブンスクールにて開会行事で「オーメンズオブラブ」を演奏、部活動体験では「初心LOVE」を演奏した。9月11日(日)ほつま祭にて「オーメンズオブラブ」「初心LOVE」「YOASOBIメドレー」「ミックスナッツ」を演奏した。11月23日(水)岡山市民会館にてバンドフェスティバルに参加し「さくらのうた」「ジャンボリミッキー」を演奏した。また、「No.1」では、生徒が企画し、撮影、再回数数を大幅に伸ばすこともできた。

《音楽部コーラス》 7月9日(土)に校内で保護者会を開催した。

8月6日(土)にミニサマーコンサートをマービーふれあいセンターで開催した。保護者を中心に多くの方が来られ、生徒も存分に歌い、踊ることができた。

【曲目】第1ステージ:ス・マ・イ・ル、イロトリドリ、めぐる季節、残酷な天使のテーゼ、君がいれば、キューティーハニー、サザエさん、ルパン三世、勇気100%、カイト
第2ステージ:ファンファーレ、合唱組

曲IN TERRA PAXから「知った」「OH MY SOLDIER」「IN TERRA PAX」風になりたい

9月11日(日)にほつま祭での発表をした。【曲目】好きだ!、残酷な天使のテーゼ、君がいれば、ルパン三世、ハレ晴レユカイ、瑠璃色の地球

9月18日(日)に開催予定だった牛窓サマーキャンプへの出演は荒天のため、中止となった。

《中・高放送部》 高校放送部では、入学説明会Ⅰ(7月24日)、入学説明会Ⅱ(8月27日)、オーブンスクール(10月15日)ではそれぞれ司会として活躍した。また、9月14日の体育会ではアナウンスを中心とした音響係として大会を盛り上げた。

ほつま祭では、司会と共に、演劇の紹介を丁寧に行った。球技大会ではアナウンスを行った。11月11日開催された創立128年記念式で司会の任をしっかりと果たした。

中学放送部も上記の任務に加え、9月25日の体育会でのアナウンスをしっかりと行い、大会を盛り上げた。

《高美術部》 ほつま祭ポスター原画に使用する作品の制作に部全体で取り組み、投票によって高3黒住彩羽の作品を選ん

だ。部展示では「Art Diary」と題し、部員たちがこれまでに制作した数々の作品を展示した。令和4年度岡山県高等学校交通安全備西ブロック協議会主催の交通安全ポスターコンクールに4名が出品し、高1中村南美が最優秀賞、高2天岡あすかが優秀賞を受賞した。来年2月に行われる岡山県高校美術展に向けて、個人作品の制作に励んだ。

《中・高新聞部》 7月6日(水)に、ほつま新聞3月号の取材として、岡山県立図書館を訪れた。高3と中3の部員全員が参加し、図書館員の方のインタビューを行い、書庫を見学した。

9月25日(日)の中学体育会では、競技と応援合戦の結果通信を発行した。

《軽音楽部》 2学期末に発表会を行う予定。それに向けて練習を頑張っている。

《囲碁将棋部》 10月1日(土)に行われた、第42回岡山県高等学校秋季将棋大会男子個人戦Aに3名(高2 仕田原 良・藤井 敬久・柳澤 賢)、個人戦Bに2名(高2 佐野大翔 高1 川崎有生)が参加し、仕田原 良がベスト8に入賞し、12月に行われる中国地区高等学校将棋選手権大会の出場権を得た。また、11

月19日(月)に開催された、第42回岡山県高等学校将棋新人大会に6名(高2 仕田原 良・藤井敬久・柳澤 賢 高1 川崎有生・西和史・ジョエルウンバク)が参加した。

《中男子ソフトテニス部》 7月22日に岡山市浦安総合公園で行われた県総体では、個人戦で金光・梁原ペアが出場し、初戦敗退であった。7月30日に笠岡総合スポーツ公園で行われたチャレンジカップでは、I部に10ペアが出場し、早野・板野ペア、生藤・桑田ペア、横溝・定金ペアが2回戦進出、金光・梁原ペアは見事優勝を果たした。II部は2ペアが出場し、青木・黒川ペアが決勝トーナメント2回戦に進出した。新チームになって10月1・2日に笠岡総合スポーツ公園で行われた備南西地区秋季総体では、個人戦に6ペアが出場し、大谷・森原、山下・藤井、青木・鶴田ペアが2回戦進出。横溝・定金ペアが準優勝を果たし、県大会への出場権を獲得した。団体戦では初戦で金浦中学校に1-2で敗れ、矢掛中学校には2-1で勝利したが、決勝リーグには進めなかった。11月6日に浦安総合公園で行われた秋季県総体では、個人戦で横溝・定金ペ

アが出場し、初戦敗退であった。11月13日に井原運動公園で行われたチャレンジカップでは、I部に8ペアが出場し、大谷・森原ペアが決勝トーナメントへ進出、生藤・桑田、横溝・定金ペアがベスト8に入った。II部に2ペアが出場し、黒川・佐野ペアが決勝トーナメント進出という結果であった。

《中女子ソフトテニス部》 中2に新入部員が1名入り、中2が7名、中1が1名、合わせて8名で活動中。10月の秋季地区総体では、4ペアが個人戦に、また3ペアが団体戦に出場した。

《高男子ソフトテニス部》 夏休み以降は、中3を交えて練習を行っている。9月17日に玉島の森で行われた新人戦(ダブルス)地区予選会では、桑田・竹内、能宗・北口、矢島・古川ペアが出場し、いずれも初戦敗退であった。11月5日に浦安総合公園で行われた岡山県高校新人ソフトテニス大会(団体)では、初戦に総社高校に0-3で敗れた。

《高女子ソフトテニス部》 8月に行われる予定であった岡山県高校ソフトテニス交流大会や高梁川流域高校ソフトテニス大会が、岡山県教育委員会のガイドライ

ンにしたがつて中止となったので、夏休み中は備西地区や倉敷地区・岡山地区の学校と練習試合を行い、連戦連敗であったものの、試合経験を積んだ。9月17日・18日に玉島の森テニスコートで行われた岡山県高校新人大会備西地区予選《ダブルス》に2ペアが出場し、河田・古江ペアは1回戦、安藤・谷野ペアは2回戦で敗退したが、安藤・谷野ペアは組み合わせの関係で、順位決定戦に進出し、備西地区12位で県大会出場権を獲得した。11月5日に浦安総合公園テニスコートで行われた岡山県高校新人ソフトテニス大会《団体》には25ペア（5名）で参加し、1回戦で和気閑谷高校に対戦成績は1勝1敗で並んだものの、得失ポイント差で敗れた。11月12日・14日に福田公園テニスコートで行われた岡山県高校新人ソフトテニス大会《ダブルス》に安藤・谷野ペアが出場し、2回戦で岡山南高校のペアにファイナルゲームの末に勝ち、久しぶりに県大会での勝利をあげたが、3回戦で倉敷商業高校のペアに敗れた（ベスト64）。

東に1―3で敗退した。女子個人戦では藤原（L2）がベスト16に入った。8月1日にカデットシングルス大会に参加した。男子2部14歳以下で安藤（L2）がベスト32に入った。10月1、2日に備南西地区秋季大会に出場した。男子個人では安藤が優勝、山田（L2）が3位、小谷（L2）がベスト8で県大会の出場権を獲得した。浅野（L2）と佐田（L2）と千葉（L2）と金子（L1）はベスト32に入った。男子団体では7勝1敗の2位で県大会の出場権を獲得した。女子個人では藤原が2位で県大会の出場権を獲得した。女子団体はオープン参加で9位となった。11月6、7日に岡山県秋季大会に出場した。男子団体では予選リーグで久世に2―3、早島に2―3、富山に3―1で予選を敗退した。男子個人では安藤がベスト32に入った。小谷と山田は1回戦敗退であった。女子個人では安藤がベスト32に入った。11月12、13日に総社市長杯に参加した。男子ジュニア団体Aクラスでは金光学園Aが予選リーグを3位で通過し、3位トナメント1回戦で倉敷天城A中に1―3

で敗れた。男子ジュニア団体Bクラスでは金光学園Bが予選リーグを3位で通過し、3位トナメント1回戦で総社南高Bに0―3で敗れた。カデット男子シングルスでは浅野と山田が決勝トナメントに進出した。《高卓球部》 7月9日に国体予選少年の部に出場し、男子シングルスでは、斎藤・白神（U1）、藤井彰（U2）がベスト32、光田舜（U2）がベスト64、女子シングルスでは川上（U1）がベスト32に入り、ベスト32に入った4名は11月に行われる全日本予選一般の部の出場権を獲得した。8月22日に県高校学年別卓球大会に出場し、高校1年生の部で白神が準優勝した。8月25日・26日に県高校秋季卓球大会に出場した。男子団体では予選リーグで倉敷天城高校・玉野高校に勝ち、決勝トナメントでは1回戦真庭高校、2回戦水島工業に勝ち、準々決勝で倉敷工業に敗れたが、その後、5―8位順位決定トナメントで総社南高校・岡山東商に勝ち、5位に入賞した。10月15日に全日本ジュニア予選に出場し、男子シングルスでは光田舜がベスト

32、斎藤・藤井彰がベスト64に入った。10月29日・30日に県高等学校新人卓球大会（学校対抗）に出場した。1回戦高松農業、2回戦笠岡工業、準々決勝は岡山商大付属高校に勝ち、1―4位決勝リーグでは関西高校・倉敷工業・玉野光南に敗れたが、第3位で12月に島根県にて行われる全国選抜卓球大会中国地区予選会への出場権を獲得した。

《中サッカー部》 6月18日19日に矢掛総合運動公園で行われた地区大会で、対矢掛中学校（0―0）PK戦5―6、対金光・里庄中学校（18―0）、準決勝では、対鴨方中学校（0―1）で県大会出場を逃した。8月6日7日に行われた第二回玉島浅口カップで、対玉島北中学校（1―2）、対船穂中学校（6―0）、対金光・里庄中学校（16―0）で一位抜けた。対笠岡東・高屋中学校（1―0）という結果であった。10月1日2日に矢掛総合運動公園で行われた地区大会で、対鴨方中学校（2―6）、対高屋中学校（9―0）、準決勝では、対矢掛中学校（0―3）で県大会出場を逃した。11月13日に寄島三ツ山公園で行われた金光ライオンズ杯で、対金光中学校（6―0）、対中山中学校（0

―0）コイントス、対玉島西中学校（1―0）という結果で、第3位になった。《高サッカー部》 高田宮杯U-18サッカーリーグ2022OKAYAMAチャレンジャリーグ（前期）の続きの結果は次の通りである。6月26日、対理大付属（0―2）、B戦（0―0）。7月10日、対操山（0―1）、B戦（0―1）。7月30日・31日に、第12回浅口カップ大会に参加、運営もさせていただき、対高知西（1―12）、対鷲羽（不戦敗）という結果であった。8月20日、練習試合を行い、対笠岡工業（0―0）、対東岡山工業（2―6）という結果であった。9月10日に岡山県高校サッカー選手権大会一次トナメントの1回戦が行われ、対朝日（0―12）という結果であった。高田宮杯U-18サッカーリーグ2022OKAYAMAチャレンジャリーグ（後期）の結果は次の通りである。10月30日、対倉敷天城（1―1）・B戦（2―0）、11月3日、対大安寺（0―2）・B戦（0―1）、対山陽学園（B戦）（2―1）、11月12日、対山陽学園（1―5）、B戦負け。11月20日、対林野（2―1）、B戦（1―2）。

4年度岡山県総合体育大会では、1回戦新見第一中学校に15―4。2回戦津山東中学校に3―1で勝利した。続く、準々決勝では、全中に出場した倉敷南中学校に0―9で敗れ、ベスト8となった。2連覇を目指した総社市長杯へは、コロナの影響により不出場となった。8月6、7日に笠岡市営球場などで行われた中3最後の大会であるペアーズカップは、一回戦で優勝した高屋中学校に0―3で敗れた。新チームとなり、9月10、11日に日心寺球場などで行われた第15回全日本春季軟式野球大会岡山県予選会では、1回戦備前クラブに4―1で勝利したが、続く2回戦で倉敷北中学校に4―5で敗れ、ベスト8に終わった。10月1、2日にどんぐり球場などで行われた備南西地区秋季大会では、1回戦高屋中学校に5―0。2回戦新吉中学校に12―1で勝利し、代表決定戦では木之子中学校に8―1で勝利し、2年ぶりに県大会出場を決めた。11月6、7日に有漢スポーツパーク野球場、新見ピオーネ球場で行われた令和4年度岡山県中学校秋季野球大会では、

1回戦北房中学校に1-0。2回戦真備・真備東中学校に2-0。準決勝では、御南中学校に2-1で勝利し、18年ぶりに決勝にコマを進めた。決勝では、旭東中学校に1-4で敗れ、準優勝となった。

11月19・20日に中国電力グラウンド、玉島の森野球場で行われた第23回玉浅良寛杯中学校野球大会では、1回戦玉島西中学校に3-1。準決勝玉島東・黒崎中学校に8-1。決勝戦では、玉島北中学校に3-0で勝利し、2年連続12回目の優勝を飾った。最優秀選手賞に日笠煌太くんが、打撃賞に岡本航くんが選出された。

《高野球部》 7月10日より開幕した第104回全国高等学校野球選手権岡山大会は、一回戦で笠岡商業高校に9対1（7回コールド）で勝利したが、二回戦で創志学園高校に0対7（7回コールド）で敗れた。

新チームになり、8月28日から秋季岡山県高等学校野球大会西部地区予選が行われましたが、初戦の芳泉高校・倉敷南高校合同チームに10対0（5回コールド）で勝利しました。次戦の玉野商工高校戦も5対1で勝利し、県大会出場を決めました。1位校決定戦で玉島商業高校に7

対0（8回コールド）で勝利し、1位校として県大会出場が決まりました。

9月25日に行われた令和4年度秋季岡山県高等学校野球大会2回戦対倉敷工業高校戦は2対6で敗れ、ベスト16での敗退となりました。

《柔道部》 7月20日に岡山武道館で令和4年度岡山県中学校総合体育大会柔道競技が行われた。男子個人戦で中2の中井康介と石井遥翔が出場し健闘した。

10月1日に里庄武道館で令和4年度岡山県中学校体育連盟備南西地区秋季柔道大会が行われた。男子個人戦に中2の中井康介が、出場し、県大会の出場権を得た。

10月28、29日に倉敷武道館で第72回岡山県高等学校柔道優勝大会が行われた。男子団体戦は4名で出場したが、1回戦でおかやま山陽高校に敗れた。男子個人戦は4名が、それぞれが善戦した。

11月6日に岡山武道館で令和4年度岡山県中学校秋季柔道大会が行われた。男子個人戦で中2の中井康介が、善戦した。

《中・高 剣道部》 「創立128年記念稽古会」を11月11日（金）午後12:45から実施した。剣道部の成り立ち、歴史、諸先輩方

の活躍などの紹介のあと、稽古会に入り、快い汗を流した。

《中剣道部》 備南西地区秋季剣道大会が10月1日（土）に笠岡総合体育館サブアリーナで開催され、雀部燦（1年）が男子個人試合に出場し、2回戦敗退であった。

第17回浅口市剣道大会が11月20日（日）天草公園体育館で開催され、雀部燦が個人試合に出場し、1年生ながら健闘し、ベスト8であった。

《高剣道部》 新人戦兼第25回中国新人剣道大会県予選会が11月5日（土）（6日（日））に津山東体育館で開催され、男子個人試合（6日開催）に才野、山下が出場し、共に1回戦敗退であった。

《高少林寺拳法部》 第33回岡山県新人大会（11/5）に出場し、男子自由単独演武で原田大地（2年）が1位、山内和人（1年）が2位、男子規定単独演武で内田圭祐（1年）が4位、高田祥希（1年）が5位、女子自由単独演武で岸本奈那美（1年）が3位、女子規定単独演武で教海菜々子（1年）が2位、佐藤史織（1年）が3位、女子自由組演武で籠崎なずな・恒本紗都（1年）が1位、尾高愛琉・高橋里桜奈（1年）が2位、女子団体演武

で岸本、籠崎、恒本、尾高、高橋、教海、佐藤（1年）が優勝した。

《中陸上競技部》

☆中国地区中学記録・岡山県中学校記録・岡山県選抜中学記録の樹立

*静岡岡県で開催されたエコパトラックゲームズにおいて、爲房百恵 水流和々花 瀧本椰々子 佐藤地央が出場した400mリレーで48秒61の「中国地区中学記録」岡山県中学記録を樹立した。
*東京都国立競技場で開催されたU16日本選手権リレーに瀧本椰々子と佐藤地央が岡山県選抜選手として選出され、瀧本が3走者として出場し選抜岡山県記録を樹立した。

*岡山県ジュニア選手権で瀧本椰々子が150mにおいて「岡山県中学記録」を樹立した。

《全国大会》

全国中学校総合体育大会が福島県で開催され、水流和々花 佐藤地央 爲房百恵 瀧本椰々子が400mリレーで6位。佐藤地央が走幅跳で7位。瀧本椰々子が200mに出場した。

U16全国陸上競技大会が愛媛県で開催され、佐藤地央が走幅跳に出場した。

《中国大会》

中国中国陸上が鳥取県で開催され、が400mリレーで水流和々花 佐藤地央 爲房百恵 瀧本椰々子が2位。100mで佐藤地央が3位、水流和々花が5位。瀧本椰々子が200mで4位。走幅跳で佐藤地央が4位、爲房百恵が8位に入賞した。

《県大会》

岡山県中学校総合体育大会が開催され、水流和々花 佐藤地央 爲房百恵 瀧本椰々子が400mリレーで大会初の1位。2年100mで佐藤地央が1位、水流和々花が2位。3年100mで爲房百恵が6位。200mで瀧本椰々子が1位、水流和々花が4位。走幅跳で佐藤地央が2位、爲房百恵が3位に入賞した。

岡山県ジュニア陸上競技選手権大会が開催され、100mで瀧本椰々子が1位、佐藤地央が4位。走幅跳で佐藤地央が1位、爲房百恵が2位。150mで瀧本椰々子が岡山県中学新記録で2位（1位は高校生）水流和々花が4位。田中結菜が走高跳で5位に入賞した。

岡山県秋季陸上競技記録会が開催され、爲房百恵が三段跳で1位、100mで4位。水流和々花が400mで1位。瀧本椰々子が100m1位。佐藤地央が走幅跳で1位。伊

藤 瑞が100mハードルで5位。田中結菜が走高跳で5位に入賞した。

岡山県秋季陸上競技選手権大会が開催され、400mリレーで水流和々花 佐藤地央 瀧本椰々子 伊藤 瑞が大会新記録で1位。100mで瀧本椰々子が1位、佐藤地央が2位、水流和々花が4位。200mで瀧本椰々子が1位、水流和々花が2位。佐藤地央が走幅跳で1位。100mハードルで伊藤 瑞が5位に入賞した。

《高陸上競技部》

《全国大会》

いちご一会とちぎ国体が栃木県で開催され、松村涼太郎が走幅跳に出場した。

《中国大会》

中国高校新人大大会が山口県で開催され、松村涼太郎が走幅跳に出場した。

《県大会》

岡山県高等学校陸上競技選手権大会が開催され、中野 結が400mハードルで7位に入賞した。

岡山県高等学校新人大大会が開催され、松村涼太郎が走幅跳で2位。中野 結が400mハードルで8位に入賞した。

《中男子バスケットボール部》 10月12日に南西地区秋季新人大大会（バスケットボール

競技の部 天草運動公園体育館で行われた。
1回戦で、笠岡東中学校と対戦し65―53で敗れ、11月に行われる県大会への出場は逃した。

《女子バスケットボール部》 6月19日・20日と備南西地区総合体育大会バスケットボール競技の部が金光学園にて開催され、1回戦井原中学校と対戦。井原中学校25―55金光学園で勝利し、準決勝鴨方中学校と対戦。鴨方中学校54―29金光学園となり敗退した。

新チームになり、10月1日・2日に備南西地区秋季大会が天草運動公園体育館にて開催された。1回戦里庄中学校と対戦。里庄中学校34―24金光学園となり、敗退した。

《高男子バスケットボール部》 10月29・30日に令和4年度全国高等学校バスケットボール選手権大会 岡山県予選会が行われた。金光学園は、総体の結果からシードを得て、5回戦からの出場となった。東岡山工業と対戦し勝利するも、翌日の準々決勝では、商大附属高校に敗れ、今大会をベスト8で終えた。

11月19・20日、26・27日に岡山県高等学校バスケットボール新人優勝大会 備

中区区予選会が行われた。19日には、倉敷翠松高校とおかやま山陽の合同チームに勝利し、翌日のブロック決勝では、倉敷南高校に勝利し、ブロック優勝を果たした。26・27日には、各ブロックを勝ち上がった、作陽高校・倉敷青陵高校・倉敷工業高校・金光学園高校での総当たり決勝リーグを行い、1勝2敗となり、備中区で3位となり、1月に行われる県大会への出場が決まった。

《高女子バスケットボール部》 9月18日・30日に第75年全国高等学校バスケットボール選手権大会岡山県予選会に出場しました。1回戦津山東高校に39対76、2回戦備前緑陽高校に54対78、3回戦古城池高校に57対81で勝ちました。4回戦目で倉敷商業高校に103対48で敗れましたが、ベスト16で大会を終えました。

《高男子バレーボール部》 高校3年5名、高校2年4名、高校1年7名の計16名で活動しています。

8月に中国私立高等学校バレーボール選手権大会があり、決勝戦で瀬戸内（広島）に敗れ、準優勝でした。

グループ戦
金光学園 2―0 広工大（広島）

学園だより

果を見てもらうことができた。高2にとつては最高の引退ステージとなった。11月に玉島ふるさとふれあい物産展に出演した。《パドミントン同好会》 毎週火曜日に小体育館で、気持ちの良い汗を流した。

《木綿崎ボランテニア部》 9月11日のほつま祭において、子ども服、本、おもちゃの交換・販売会を行った。来場者の方との交流を通して、コミュニケーション能力の向上をはかった。売り上げは福祉団体に寄付させていただいた。

《その他（水泳競技）》 7月9日、10日に倉敷市屋内水泳センターで行われた第60回岡山県中学校総合体育大会水泳競技の部の中2小川聡太、平井愛佳が出場した。小川が100m、200m平泳ぎ共に4位と健闘した。

9月4日に岡山市立市民屋内温水プールで行われた岡山県中学校秋季水泳競技大会に中1中原桃子、中2小川聡太、田口大輝、平井愛佳が出場した。小川が100m平泳ぎで1位、200m平泳ぎで2位と力を発揮した。

金光学園 2―0 広陵（広島）
金光学園 2―0 広島城北（広島）
金光学園 2―0 美作（岡山）
グループ1位通過

決勝トーナメント

金光学園 2―0 広陵（広島）
準決勝 金光学園 2―0 関西（岡山）
決勝 金光学園 1―2 瀬戸内（広島） 準優勝

11月に3年生最後の大会となる岡山県高等学校バレーボール選手権大会が開催され、決勝戦で岡山東商業に敗れ、準優勝でした。

3回戦 金光学園 2―0 吉備高原
準々決勝 金光学園 2―0 倉敷工業
準決勝 金光学園 2―0 岡山龍谷
決勝 金光学園 1―3 岡山東商業 準優勝

12月からは新チームでの試合となります。引き続き、全国大会ベスト8を目標に頑張っていきますので、応援よろしくお願ひします。

《ダンス部》 8月に玉島ハーバードンスに出場し、優勝することができた。9月には2年ぶりにほつま祭で発表をすることができ、家族や友人に日頃の練習の成

ドイツからヤンくんが来日、現在高校1年に在籍、来年7月に帰国の予定です。
一日体験入学パートⅡ 8月27日、オースケールを開催した。今年度より午前・午後の2部制とし、午前は小学5年生・6年生と保護者の方、午後は中学生と保護者の方を対象に、授業体験、部活動体験、説明会などを行った。

課題テスト 中学は8月23日に、高1・2は8月22日～8月24日に、高3は8月22日にそれぞれ実施した。

金光学園杯小学生招待バレーボール大会 9月4日、第18回目になる大会が小学生22チームを招待しほつま体育館で開催された。

ほつま祭 9月10日、11日2年振りにほつま祭が開催され、保護者の方も多数来校された。

教育実習 9月13日から10月1日の期間に、卒業生1名が3週間の実習を行った。

高校体育会 9月14日、保護者の方にもご来校いただき高校体育会が行われた。猛暑のなかではあったがそれぞれの競技でブロック対抗の熱戦が繰り広げられた。

中学体育会 9月25日、中学体育会が行われ、多くの保護者の方にご来校した

だき熱戦が繰り広げられた。

高1進路学習 9月26日、5・6時間目に高1が玉島青年会議所のご協力で9グループ17事業所に分かれてお話を聞かせていただいた。文理選択の時期を迎えた生徒にとって大変有意義であった。

中教員対象説明会 9月29日 県内外の中学校の先生をお招きし令和5年度入試の説明会を開催した。

高校進路講演 9月30日、高1はベネッセコーポレーションの岩城将太氏による講演を、高2はキャリアサクセスの山崎裕正氏による講演をそれぞれ聴いた。

塾対象入試説明会 9月30日、塾の先生方を対象に令和5年度の中学・高校入試などについて説明を行った。

進路学習

10月7日に中1、2年が、NPOだつぷの方に「ご指導いただき、「大人」と夢を語るプログラム」と題し将来の職業を見据えた中学校時代の過ごし方について考えた。10月7日、中3はマイナビのローカスを使用して福山方面にでかけて職場体験を実施した。

高2大祭奉仕 10月7日、6・7限に高2は金光教本部祭場で清掃奉仕を行った。

金光学園杯小学生卓球大会 10月9日、

第22回の卓球大会が小体育館で開催された。91名の参加があり、シングルスで男女別に優勝杯を競い合った。

2学期中間考査 高3は10月7日から高1、2は8日から中学は11日から13日まで2学期中間考査を実施した。

進路学習 中3は10月14日、高教務課長から高校の学習について心構えを学んだ。

オープンスクールパート4 今年度初めてを試みとして10月15日、小学6年生を対象に授業見学、在校生の体験談、部活動体験などの内容でオープンスクールを実施した。

Kibi Autumn Adventure 10月16、17日一泊二日中で中2は国立吉備青少年自然の家でKibi Autumn Adventureを行った。

学年の生徒を8つのチームに分け、ベルリッツの9名の外国人講師の指導の下、それぞれがオールイングリッシュで4つのテーマの活動に臨んだ。夕食後は留学生25人と交流を深めた。2日目はオリエンテーリングなどを行い有意義な研修となった。

避難訓練 10月19日、火災が発生したとして避難訓練を実施した。

球技大会 10月21日、秋晴れの下、高1・2は10月22日にEテレ「ハートネットTV」を見て、ユニバーサルデザインを実現する社会づくりについて考えを深めた。高1は10月29日にオンラインで長島愛生園歴史館学芸員 田村朋久氏によるハンセン病の歴史、園の成り立ちや差別等に関する現状についての講演を聴き、感想文を書いた。高2は11月18日に笠岡市人権擁護委員の方をお招きしてデートDVについて講演をしていただいた。

ロードレース 11月9日、中学校全体のロードレース大会が行われた。男子は4キロ、女子は2キロのコースをそれぞれ力走した。

創立128年記念式 11月11日、3年ぶりに全校生徒による本部参拝と巡拝ののち、創立128年の記念式がオンライン形式で挙行された。生徒代表、田淵春成くんの所願表明は大変すばらしく、後輩に向けて大変な元気を与えた。式典後、高23回卒業の大阪大学名誉教授、福井工業大学工学部教授 西嶋茂宏先生のお話をお聞きした。夢を叶えるために必要な努力について学ぶ機会になった。今後の生活に大き

な示唆を与えていただいた。

心の教育 11月22日、中1は金光道晴校長から記念講堂や中山亀太郎先生についての話を聴き、金光学園の歴史や精神を学んだ。

美術館見学 11月22日、学校メンバー制度を利用し中3は大原美術館等の見学を行った。

主権者教育 12月2日、高2が岡山県の選挙管理委員会の方をお招きして模擬投票などを実施し選挙について理解を深めた。

中学入試 12月4日、令和5年度中学校適性検査型入試を実施した。

2学期末考査

高校は3日から中学は5日から9日まで期末考査を実施した。

グローバル教育 ①岡山県「国際理解講座」12月10日、中2は岡山県韓国交流推進員バク・ワン氏をお招きし、「グローバル社会で生きていくために必要なこと」という演題で講演を行った。②外務省「ODA出前講座」を12月16日、外務省の黒須太記子氏をお招きし、講演ならびに講師を囲む会実施。③Radford College から短期留学生来校 2名 12月10日から1月14日

2年の球技大会が開催された。

性教育 中1は10月14日に笠岡人権擁護委員協議会の方をお招きし、人権教育も兼ねて、デートDVについての話を聞き、人と人とのよりよい関係づくりについて学んだ。10月28日にデートDVの話をおまえて、各HR教室で自己表現について考え、互いに尊重しあうことの大切さを学んだ。

中学・高校入試模擬テスト 10月23日 来春の中学校入試を受験する小学校6年生を対象に、10月29日、来春の高等学校入試を受験する中学3年生と学園の中学3年生（希望者）を対象に模擬テストを行い、多くの受験生が本番さながらに挑戦した。また高校の推薦入試受験希望者には面接を行った。その後、入試説明が行われ、それぞれに令和5年度入試についての説明を行った。

中学リレククリーン作戦 中学生徒会が企画しリレククリーン作戦を10月25日から12月16日まで実施し、学校周辺の清掃を実施した。

読書会

中3は11月4日に、中2は11月8日に、高1は11月18日に、それぞれ学年で希望の本を選び、各グループに分

ウインターチャレンジ 12月24、26、27日の3日間、高校1・2年の特進クラスと総合進学クラスの希望者が参加し実施。Konkou Gakuen Writer English Village 12月26、27日 初級5人、中級8人参加 2学期終業式 12月24日、2学期終業式をオンラインで実施。

お祝い 戸田洋平先生には7月24日に長女がご誕生、お慶び申し上げます。山本善直中学教頭、谷野一忠先生には7月28日岡山県私学協会功労者表彰を受賞、11月3日金光道晴校長には、瑞宝小綬章を受章、心よりお慶び申し上げます。

お悔やみ 事務職員市川智裕氏のご祖父には7月21日に、ご逝去、西山龍明先生、西山秋子先生のご祖母には8月18日に、ご逝去、佐藤径先生の御母堂には10月19日に、ご逝去、謹んでお悔やみ申し上げます。

高2修学旅行 沖縄



高2修学旅行 北海道



教室の窓から

私にとって金光学園は、6年間通わせてもらい、様々なことを経験、学ばせてくれた学校であり、言うならば故郷である。教員として故郷に帰ってきた今も、多くのことを学ばせてもらっている。そんな金光学園には「人をたいせつに、自分をたいせつに、物をたいせつに」という合言葉がある。私はこの言葉がとても好きであり、卒業するときには書いた、合言葉が書かれた色紙を今も家に飾っている。その合言葉についてあるとき、クラスの子に「どれも大切にしないとダメなことだけど、強いていうならどれを一番大切にしたい？」と聞いてみた。すると答えは、「人をたいせつに」がクラスの4割、「自分をたいせつに」がクラスの1割という結果になった。答えを聞いたあと、各々に選んだ理由を述べてもらい、クラスで共有した。様々な考え、意見があり、お互いがお互いの意見を尊重しあい、批判しあい、本当に有意義な時間を生徒と一緒に過ごせた気がする。このような、「自分の考えを伝え、他人の考えを聴く」そして、「他

人の考えを尊重し、時に批判する」ことは生徒にも大人にとってもなかなかうまく出来ない難しいことである。しかし、この力は人生をよりよく生きていくためには必要不可欠なものであると私は思う。自分の考えばかり押し付けたり、相手の考えを聞かずに無視して物事を進めていったりしてしまったりと、物事は確かに進んでいくが、良い方向には向かわないと思うからだ。生徒同士のトラブルや、生徒の問題行動、大人同士のトラブルなど、学校現場に限らず良くないことが起きているときは、「伝える・聴く・尊重・批判」ということができている原因ではないのかと教員になって思うようになった。だから、私は生徒がこの力を身につけられるような関わり方を日々意識している。ですが、まだまだ私自身も「伝える・聴く・尊重・批判」ができていないので、生徒と一緒に成長中である。ちなみに、私は合言葉のうち強いていうなら「人をたいせつに」を一番大切にしたいと考えている。金光学園という学校自体に同じ質問をしてみたら、もっと金光学園について深く知れておもしろいかも知れない。またいつか金光校長にお尋ねしたいと思う。どんな答えが返ってくるのか気になって仕方がない。

編集後記

笑顔！この言葉が今回のやつなみにもっともふさわしい。3年振りの高2修学旅行（高3・大学1年生の学年は計画のみで未実施）2年振りのほつま祭（昨年はまん延等防止措置の為急遽中止）、2年振りの保護者参観中高体育会（昨年は無観客）、初の中2宿泊オータムアドベンチャー、そして部活動、すべての写真には生徒の笑み。生徒の笑顔に保護者の皆様の笑顔が重なる。子供たちの成長を一瞬も見逃すまいと必死にカメラを回す保護者、参観授業の廊下も保護者で一杯だ。「先生、久しぶりでですから楽しみなんです」とのお母様の言葉にハッと「ご入学いただいたら毎月1回は学校に来ていただきます。」学校案内で説明していたのを思い出します。保護者からいただいたほつま祭や体育会の感想を拝読しその愛情の深さに思わず涙がこみ上げた。「子と共に育つ」やつなみ保護者会そのものと思う。

令和4年12月15日印刷
12月22日発行

編集者

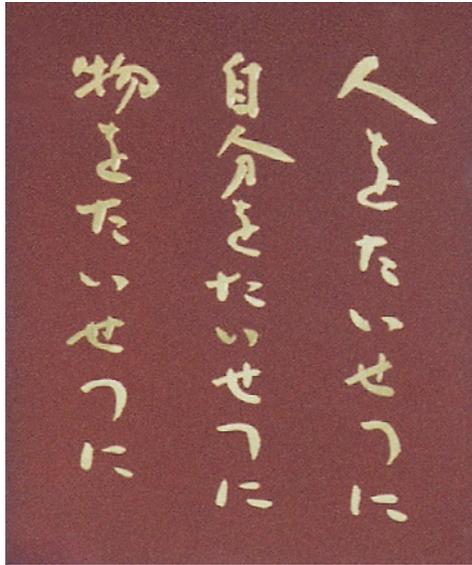
金光学園やつなみ保護者会
やつなみ編集部

印刷所

倉敷市船穂町船穂二〇九五―一
玉島活版所

発行所

浅口市金光町占見新田一三五〇
金光学園内
金光学園やつなみ保護者会



◎ほつま = 秀真

非常に優れ整い備わっていることの意。

「日本という国」の古異名の一つ。

創立後、生徒会や冊子の名に使用。

ほつま体育館、ほつま祭などで使われる。

◎やつなみ = 八波

どこまでもひろがり栄えゆく願いをこめる。

金光教・学園・中学・高校の徽章のふちどり。

P T A機関誌創刊当時、会員から公募してつけた。



homepage



facebook



Instagram

人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに

<http://www.konkougakuen.net>

E-mail info@konkougakuen.net